

# 2018年6月期 決算説明会資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス  
2018年8月23日



1. 2018年6月期 決算概要
2. 2019年6月期 見通し
3. 会社概要
4. 参考データ

---

# 1. 2018年6月期 決算概要

# 2018年6月期 ハイライト



## 業績

売上高	37,456百万円	(前年同期比 28.6%増)
営業利益	1,002百万円	(前年同期比 25.8%増)
経常利益	1,319百万円	(前年同期比 31.9%増)
当期純利益	840百万円	(前年同期比 9.3%増)
ROE	8.6%	(前年実績 0.6%減)

## 主要TOPICS

- 鉄スクラップは期中平均価格が上昇(前期実績 23,471円 当期実績 32,011円)
- リサイクル資源の集荷・生産工程においては金属、スクラップ相場の上昇により収益増加。
- 中古車・中古車部品等はパーツ、トラック部門が好調。
- 環境コンサルティング事業の契約数が大幅増。
- 新規事業（障がい者就労移行支援、木質系バイオマス燃料の輸入、デジタルサイネージ）は、立上げ費用先行。
- 再生プラスチック生産・販売事業を行う(株)プラ2プラ、リチウムイオン2次電池等のリサイクル事業を行う(株)VOLTAを設立。

# 一部指定及び資金調達について

2018年6月18日東証一部指定。同時に資金調達を実施済。全額を当社連結子会社に投融資し、当社グループの設備投資資金に充当。

## 1 株式会社VOLTA（1,243百万円）

本社工場の使用済みリチウムイオン2次電池リサイクル設備（電池焼成破碎選別設備）と第二期工事として関東地区で新設予定の使用済みリチウムイオン2次電池リサイクル設備（建物・電池焼成破碎選別設備）

## 2 株式会社エコネコル（214百万円）

雑品及び焼却残渣からの金銀滓選別設備

## 3 株式会社クロダリサイクル（100百万円）

木くず等破碎選別ライン（建物・複合選別設備）

# 2018年6月期 連結損益計算書概要

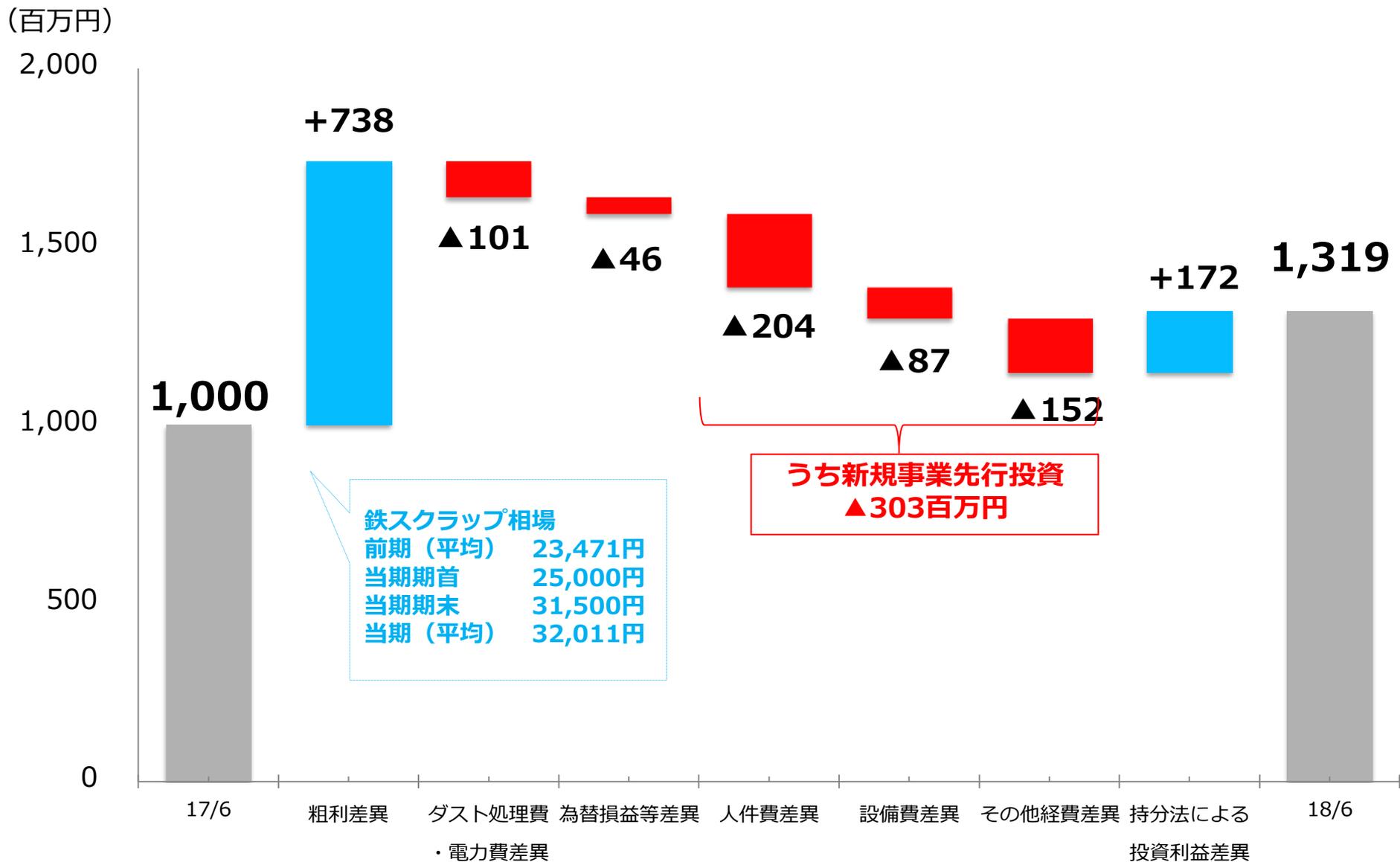
	2017年 6月期	2018年 6月期	前年同期比		2018年 6月期	対前回公表比	
	実績	実績	増減	増減率	前回公表	増減	増減率
売上高	29,122	<b>37,456</b>	8,333	28.6%	37,797	▲ 340	-0.90%
売上総利益	5,702	<b>6,541</b>	838	14.7%	—	—	—
営業利益	796	<b>1,002</b>	205	25.8%	989	13	1.34%
経常利益	1,000	<b>1,319</b>	319	31.9%	1,250	70	5.59%
税金等調整前 当期純利益	1,046	<b>1,221</b>	175	16.7%	—	—	—
当期純利益※	768	<b>840</b>	71	9.3%	845	▲ 4	-0.53%
E B I T D A ※	1,395	<b>1,638</b>	243	17.4%	—	—	—
純粋固定費※	5,004	<b>5,449</b>	444	8.9%	—	—	—
ROE	9.2%	<b>8.6%</b>	▲0.6%	▲6.6%	—	—	—

※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

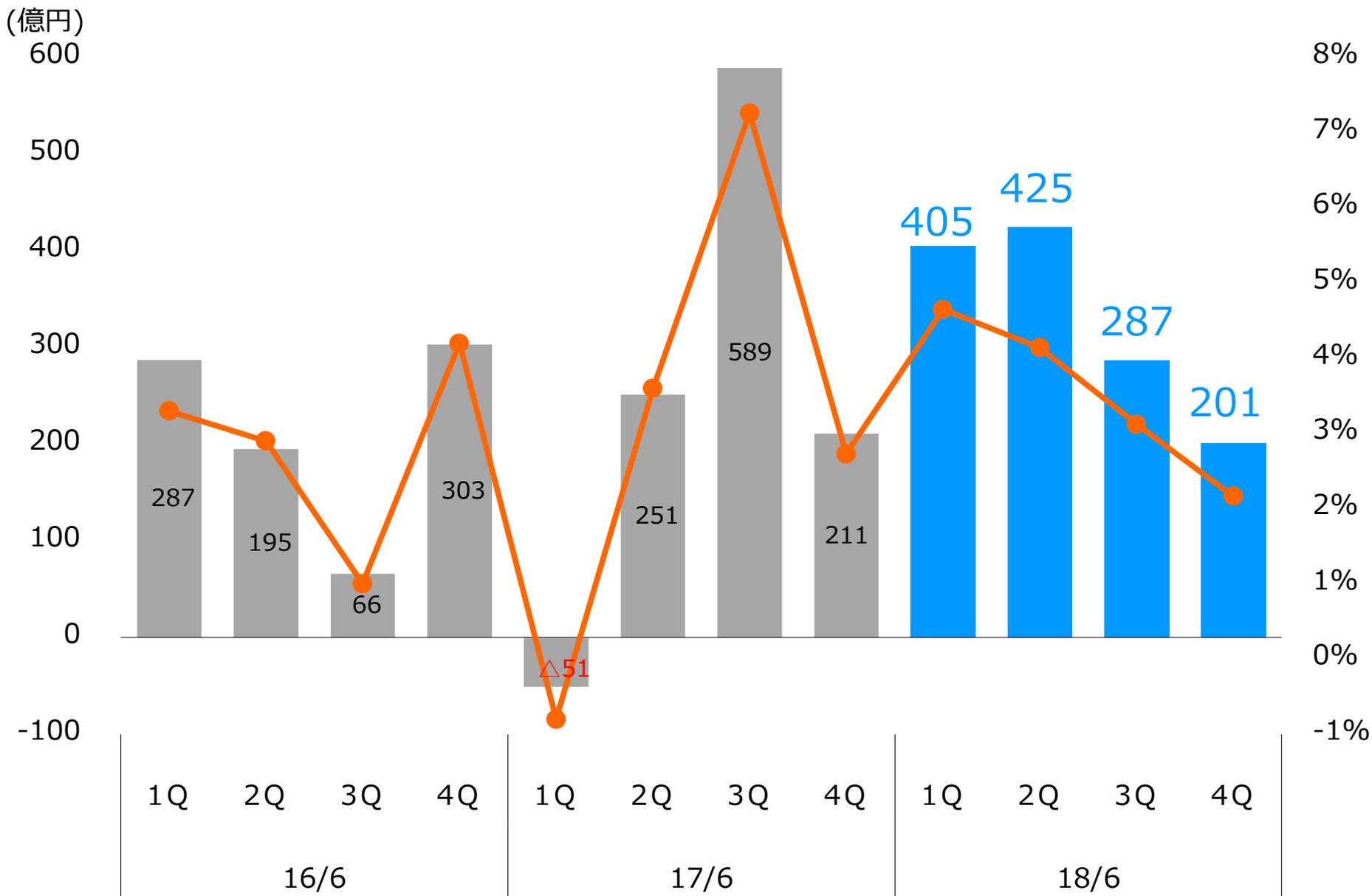
※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

# 経常利益差異分析



# 四半期經常利益推移

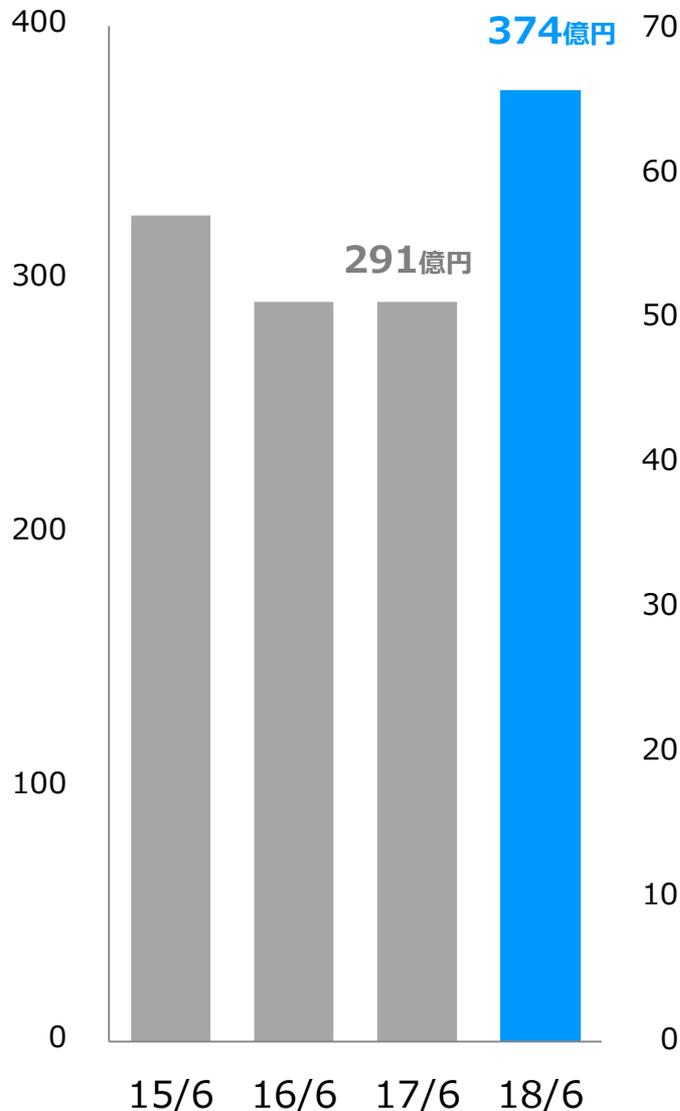


# 連結業績



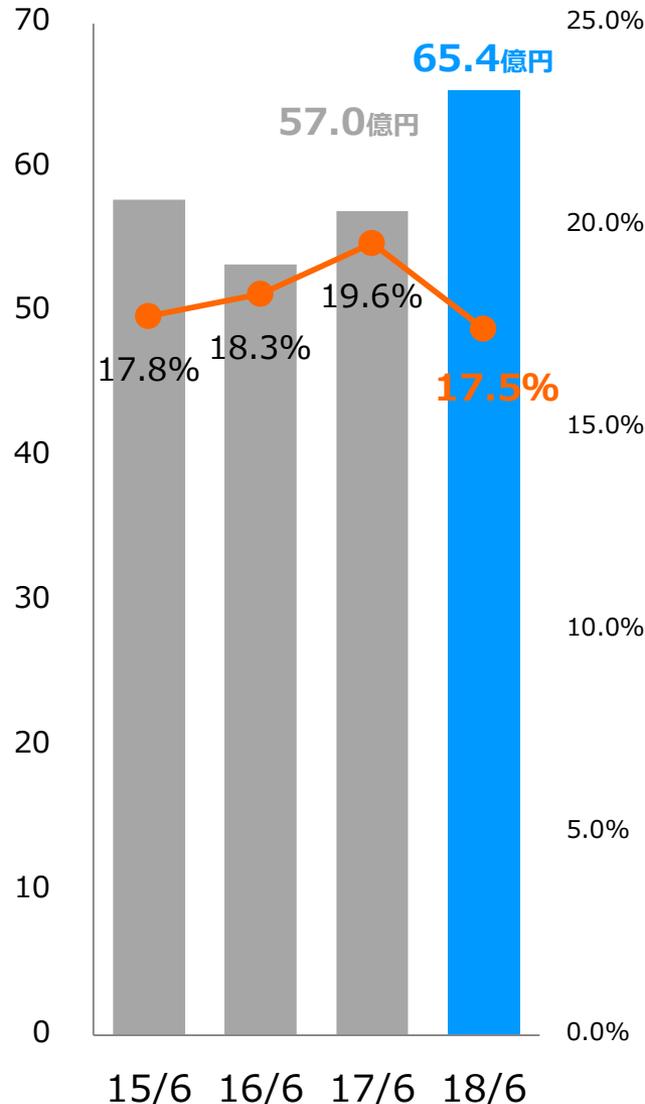
## 売上高

(単位：億円)



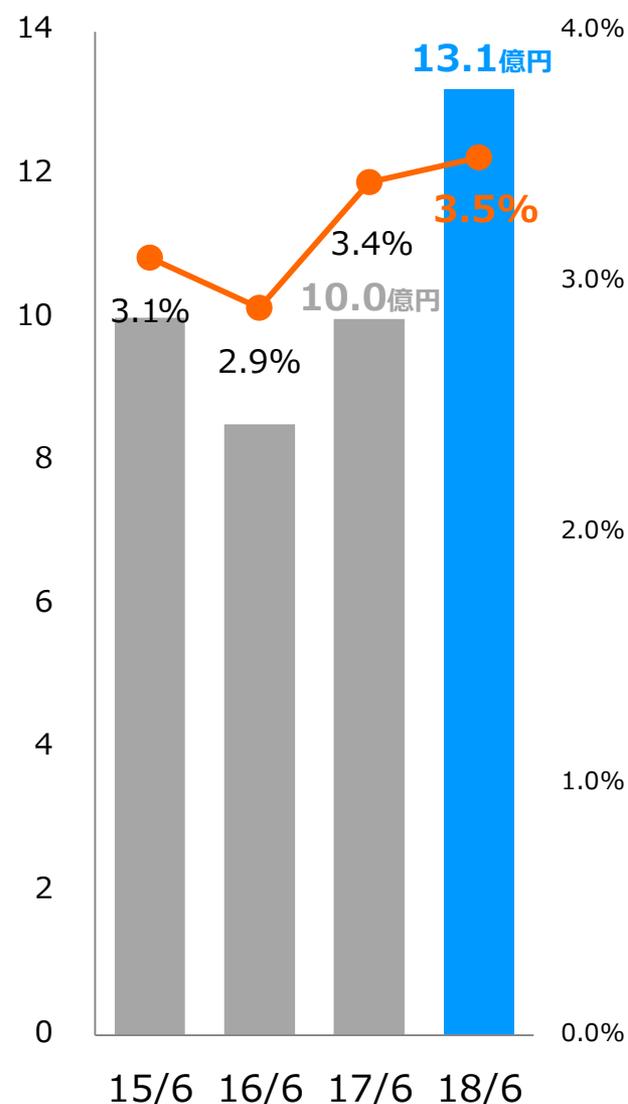
## 売上総利益・率

(単位：億円)

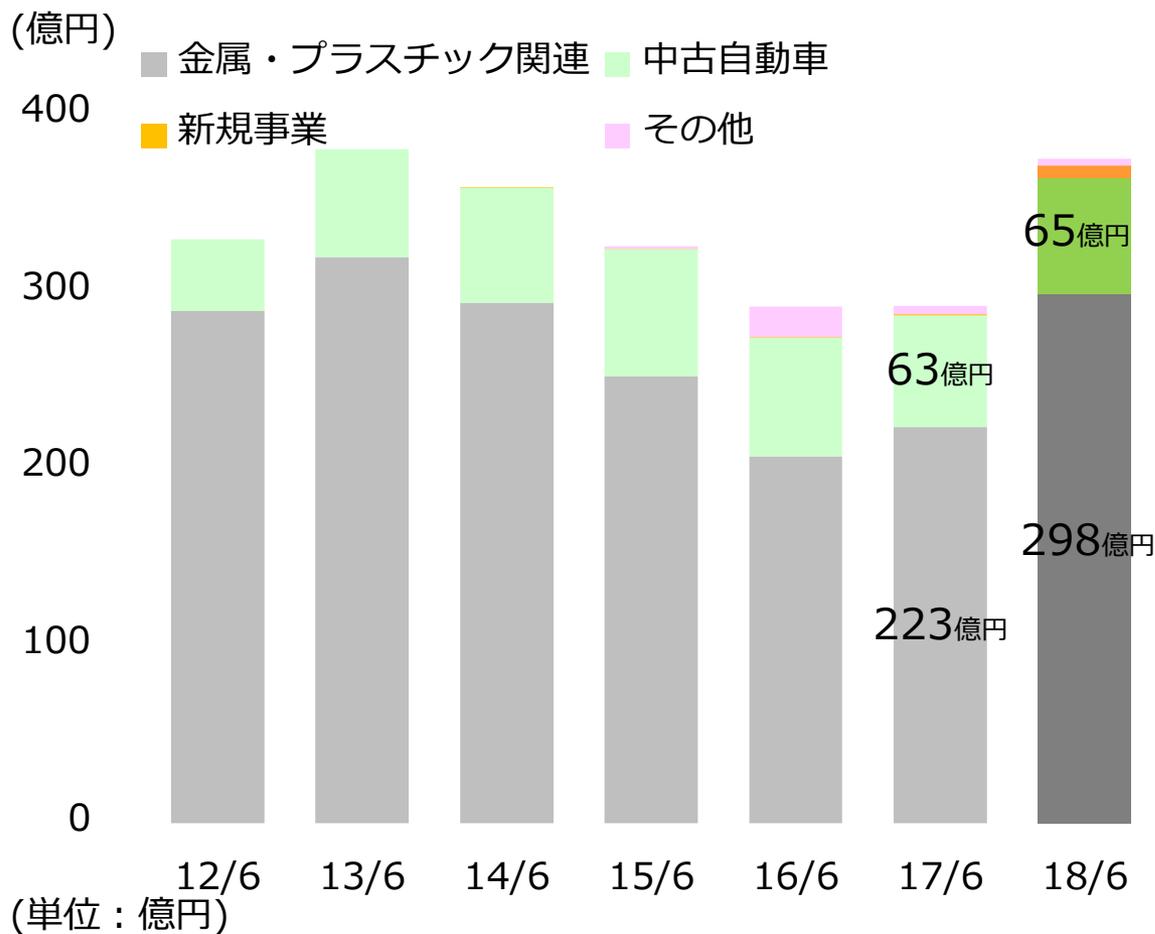


## 経常利益・率

(単位：億円)



# 品種別売上高推移

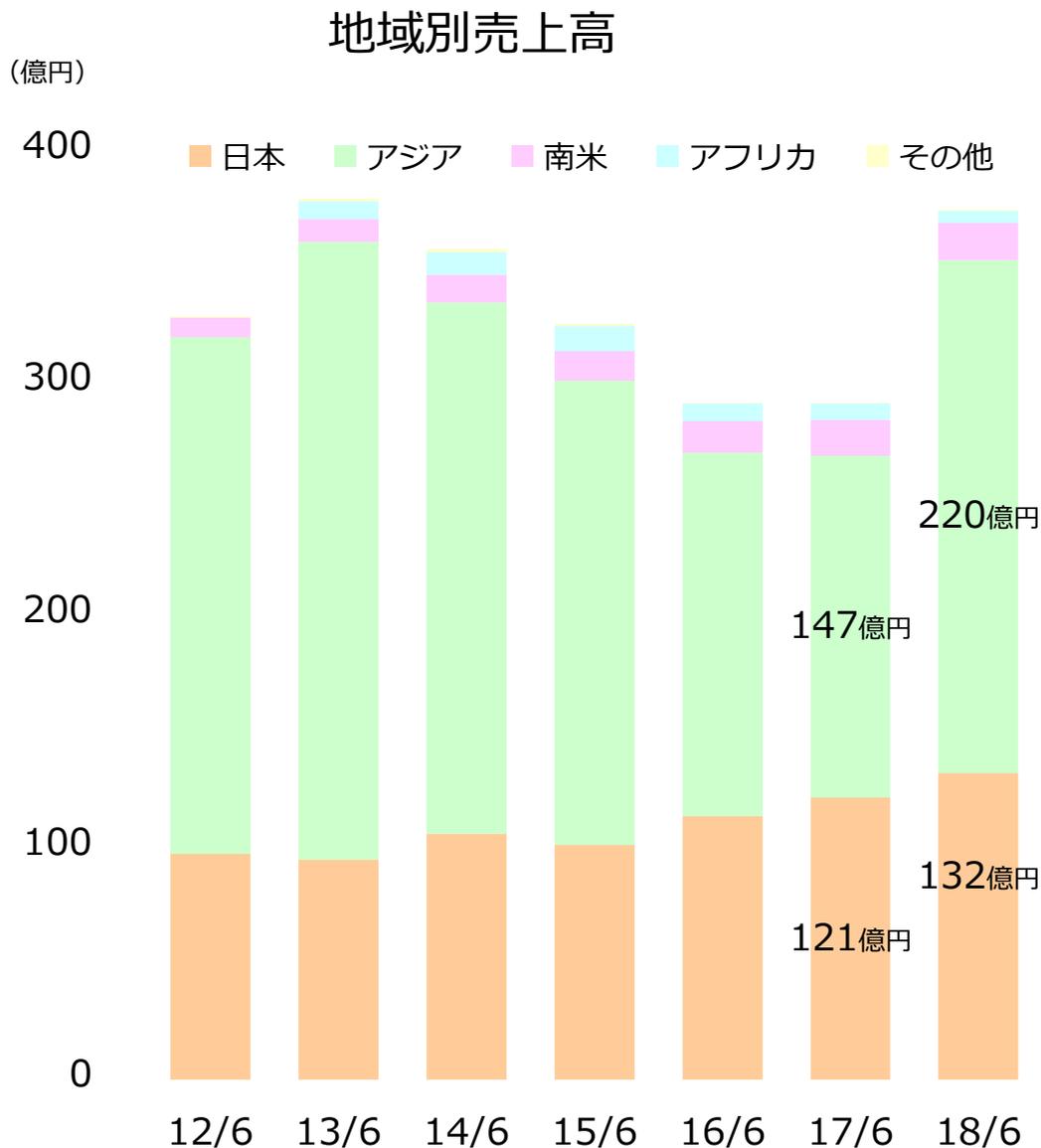


金属・プラスチック関連

前期比 **34%増**

品種別合計	329	380	358	325	291	292	375
相殺	▲1	▲1	▲1	▲0	▲0	▲0	▲0
連結	328	379	357	325	291	291	374

# 地域別売上高推移



アジア向けの鉄・非鉄  
販売が増加

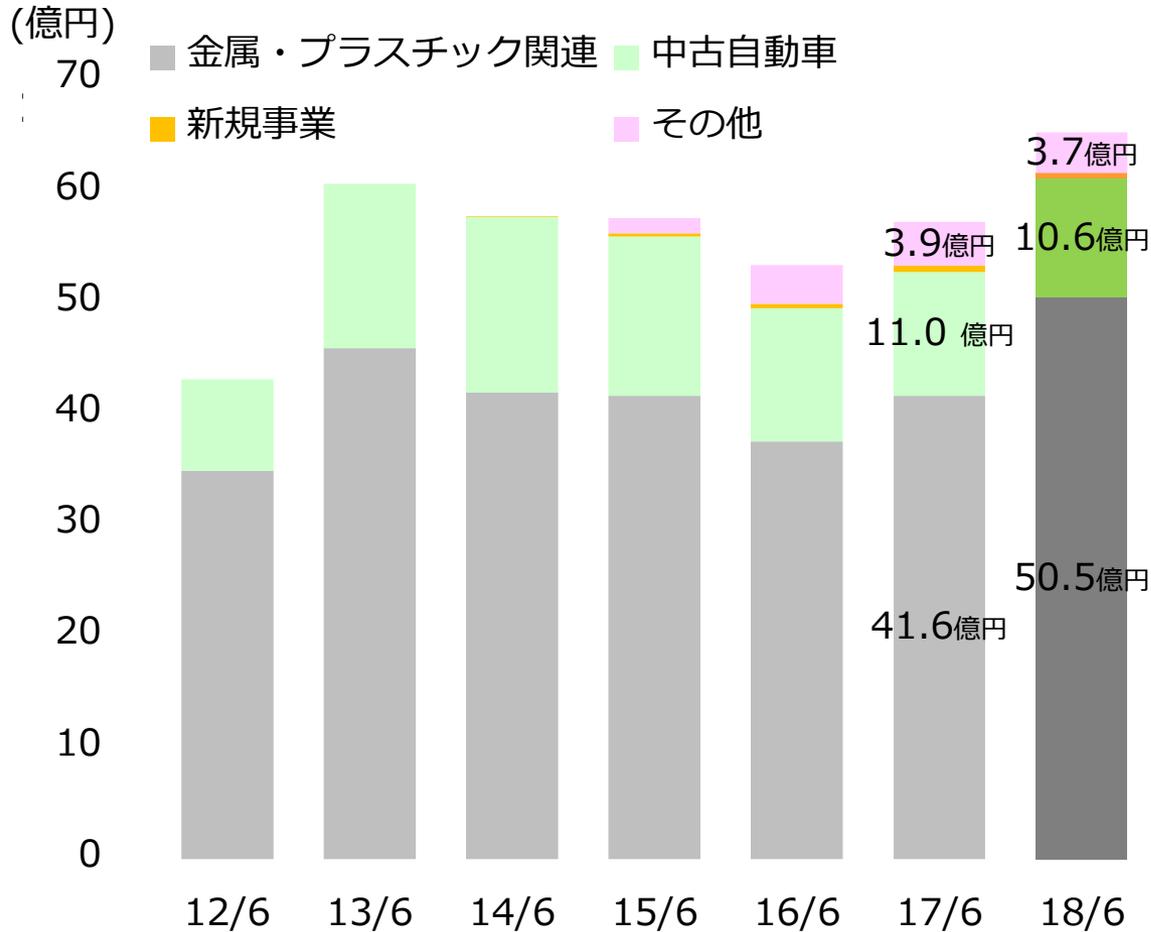
アジア

前期比 **50%増**

日本

前期比 **9%増**

# 品種別売上総利益推移



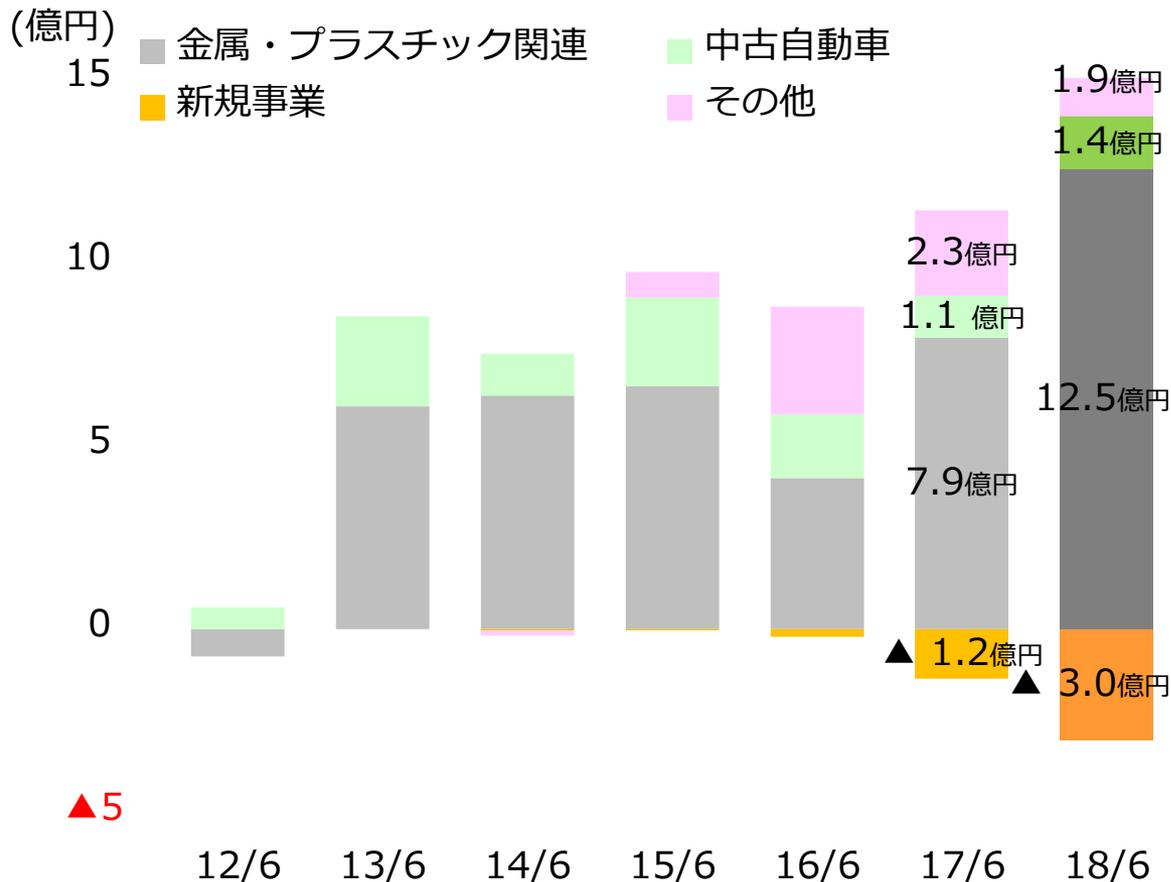
金属・プラスチック関連

前期比 **21%増**

(単位: 億円)

品種別合計	43.1	60.7	57.8	57.6	53.3	57.2	65.3
相殺	0.0	▲0.0	0.1	0.2	▲0.0	▲0.2	0.0
連結	43.1	60.6	57.9	57.8	53.3	57.0	65.4

# 品種別経常利益推移



金属・プラスチック関連

前期比 **58%増**

中古自動車

前期比 **26%増**

新規事業は費用が先行

(単位：億円)

品種別合計	▲0.1	8.5	7.3	9.7	8.5	10.0	12.8
相殺	0.5	0.4	▲0.0	0.3	▲0.0	▲0.0	0.3
連結	0.3	8.9	7.2	10.0	8.5	10.0	13.1

# 連結貸借対照表概要



(百万円)

	2017年 6月末	2018年 6月末	増減額		2017年 6月末	2018年 6月末	増減額
流動資産	8,108	11,541	3,432	流動負債	6,319	7,150	830
固定資産	9,777	10,120	342	固定負債	2,581	3,243	661
(有形固定資産)	5,030	5,442	411	負債合計	8,901	10,393	1,491
(無形固定資産)	141	95	▲ 45	純資産	8,985	11,268	2,283
(投資その他の資産)	4,605	4,581	▲ 23	(株主資本)	8,680	10,889	2,208
資産合計	17,886	21,661	3,774	負債純資産合計	17,886	21,661	3,774

## 主要TOPICS

- 現金及び預金2,791百万円、受取手形及び売掛金554百万円が増加し、流動資産が増加。
- 投資有価証券433百万円、建設仮勘定245百万円、土地119百万円の増加により固定資産が増加。
- 支払手形及び買掛金198百万円、短期借入金552百万円の増加により流動負債が増加。
- 長期借入金が680百万円の増加により固定負債が増加。
- 公募増資及び第三者割当増資により資本金788百万円、資本剰余金788百万円が増加。

# 連結キャッシュ・フロー計算書概要



(百万円)

項目	2017年6月期	2018年6月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	5	828	823
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2,567	▲ 618	1,949
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,757	2,564	807
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	15	▲ 3
現金及び現金同等物の増減額	▲ 786	2,790	3,576
現金及び現金同等物の期首残高	2,852	2,066	▲ 786
現金及び現金同等物の期末残高	2,066	4,856	2,790

## 主要TOPICS

- 営業CF：収入 税金等調整前当期純利益(1,221百万円)、減価償却費(604百万円)  
支出 売上債権の増加(559百万円)、棚卸資産の増加(83百万円)  
法人税等の支払(349百万円)
- 投資CF：収入 出資金の回収(4,234百万円)  
支出 有形固定資産の取得(1,078百万円)、出資金の払込(3,727百万円)
- 財務CF：収入 株式の発行(1,573百万円)、長期借入金(1,100百万円)  
支出 長期借入金の返済(394百万円)

---

## 2. 2019年6月期 見通し

# 足元の事業環境と取り組み

## 事業環境

- 世界的な貿易摩擦による懸念はありつつも、資源価格は堅調に推移することを予測。
- 中国の環境規制により日本から中国への廃プラスチック及び雑品輸出が困難になり、ビジネスチャンスが増える。
- ESG投資が注目されており、RE100等環境経営に注目が集まっている。

## 取り組み

- サステナビリティ戦略の設定

⇒「資源」と「エネルギー」に関する社会的課題を解決するための施策として、下記の①②をコア事業として注力。③④はコア事業とシナジーがある周辺事業として中長期目線で成長を促す。

①資源循環事業

②流通事業

③気候変動対応事業

④グループ支援事業

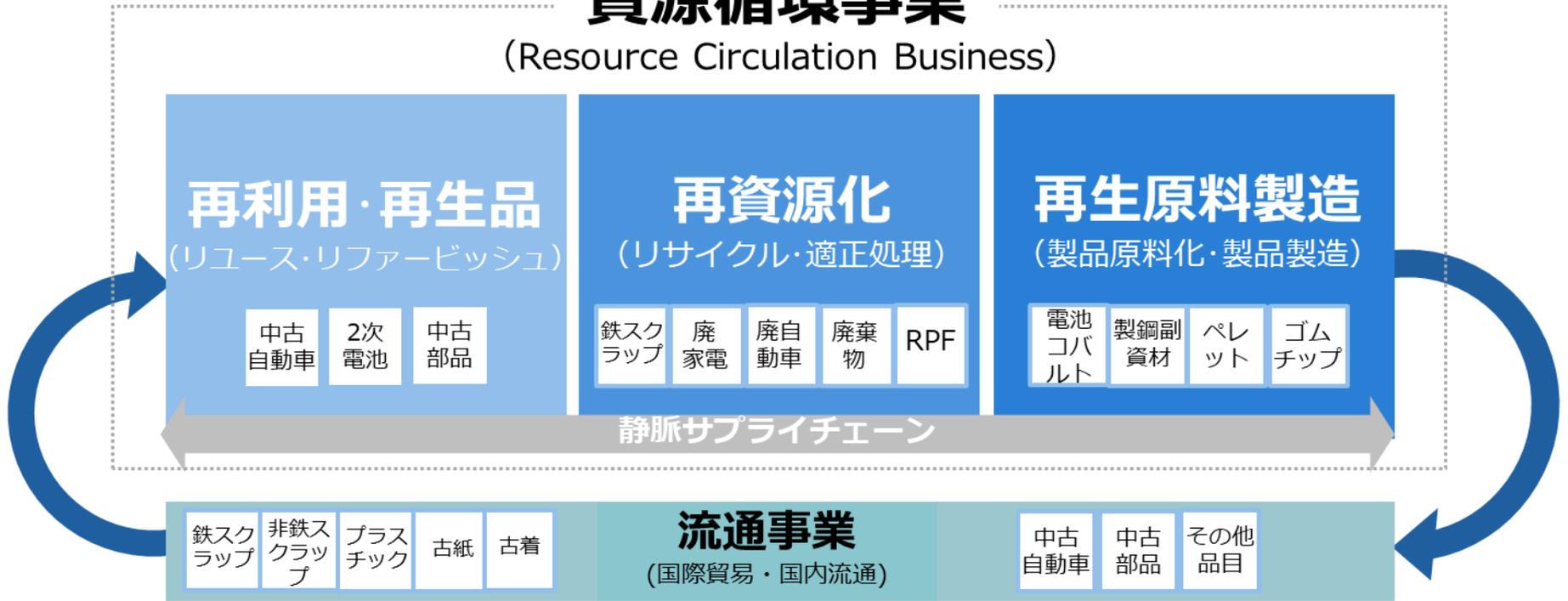
新規事業とともに既存事業も利益創出源を変えていき

非連続の変化を乗り越えられる事業構造確立へ

# ミッション「持続可能社会実現の一翼を担う」

## 資源循環事業

(Resource Circulation Business)



### 気候変動対応事業

クリーンエネルギー

### グループ支援事業

グループの事業を補完  
支援する事業

#### 【経営基盤】

グループの経営を  
根底で支える基盤

人材開発

ガバナンス

#### 【成長基盤】

最適化  
効率化

技術・市場  
開発

グループ全体の事業成長を促進するための成長基盤

# 2019年6月期業績見通し（連結）



(百万円)

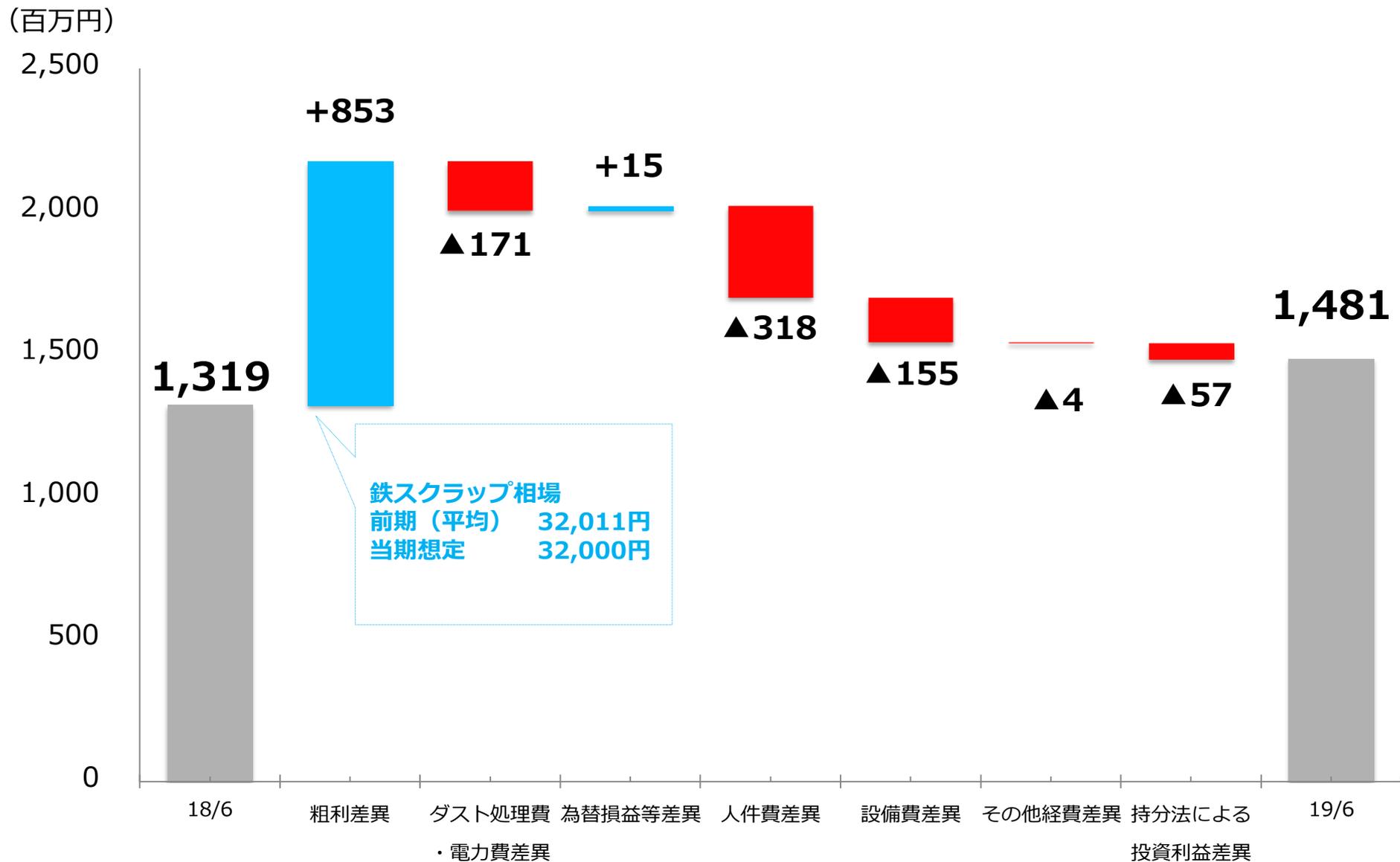
	2017年6月期	2018年6月期	2019年6月期		
	通期	通期	通期	増減	増減率
売上高	29,122	37,456	<b>39,479</b>	2,023	5.4%
売上総利益	5,702	6,541	<b>7,121</b>	580	8.9%
営業利益	796	1,002	<b>1,184</b>	182	18.2%
経常利益	1,000	1,319	<b>1,481</b>	161	12.3%
税金等調整前 当期純利益	1,046	1,221	<b>1,491</b>	270	22.1%
当期純利益※	768	840	<b>1,054</b>	213	25.4%
E B I T D A	1,395	1,638	<b>1,974</b>	335	20.5%
純粋固定費	5,004	5,449	<b>5,927</b>	478	8.8%
ROE	9.2%	8.6%	<b>9.3%</b>	0.7%	8.1%

※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

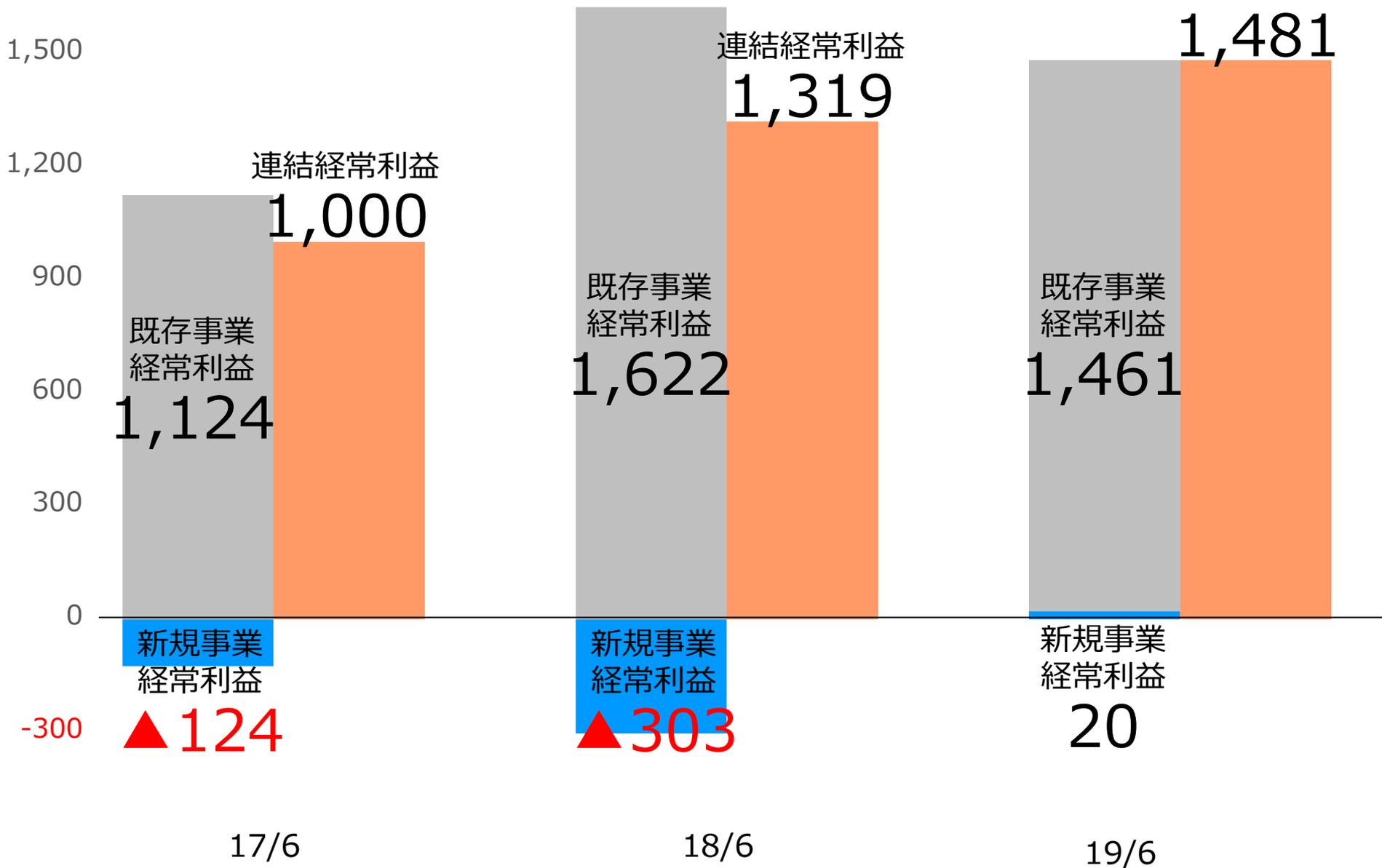
※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

# 経常利益差異分析



# 既存事業・新規事業 経常利益の構成

単位：百万円   
連結経常利益

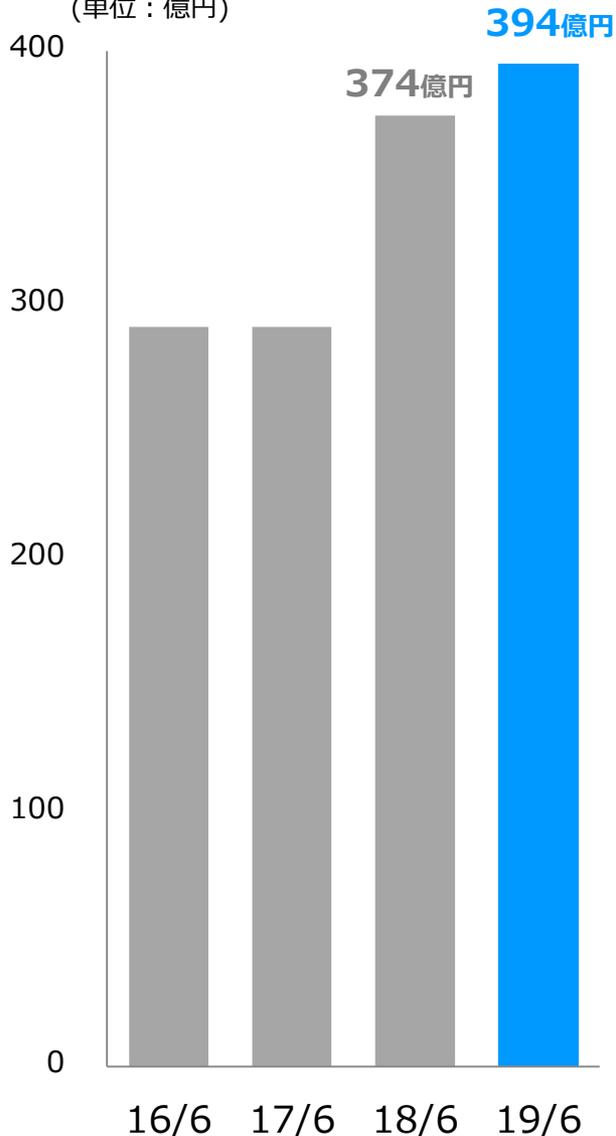


# 連結業績予想



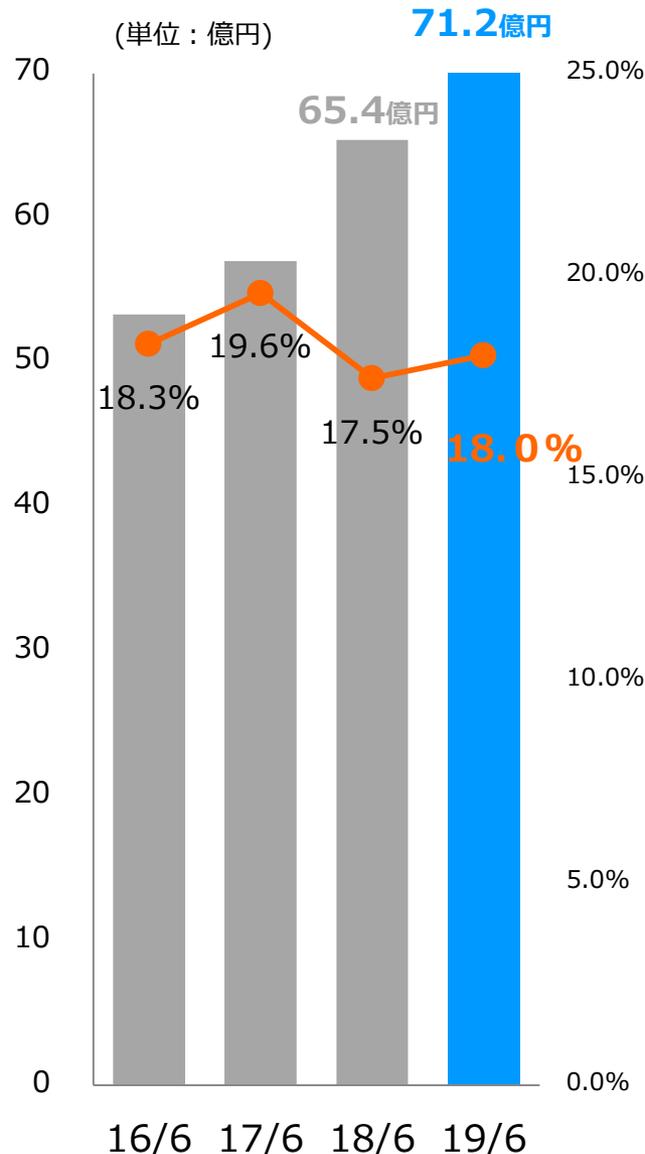
## 売上高

(単位：億円)



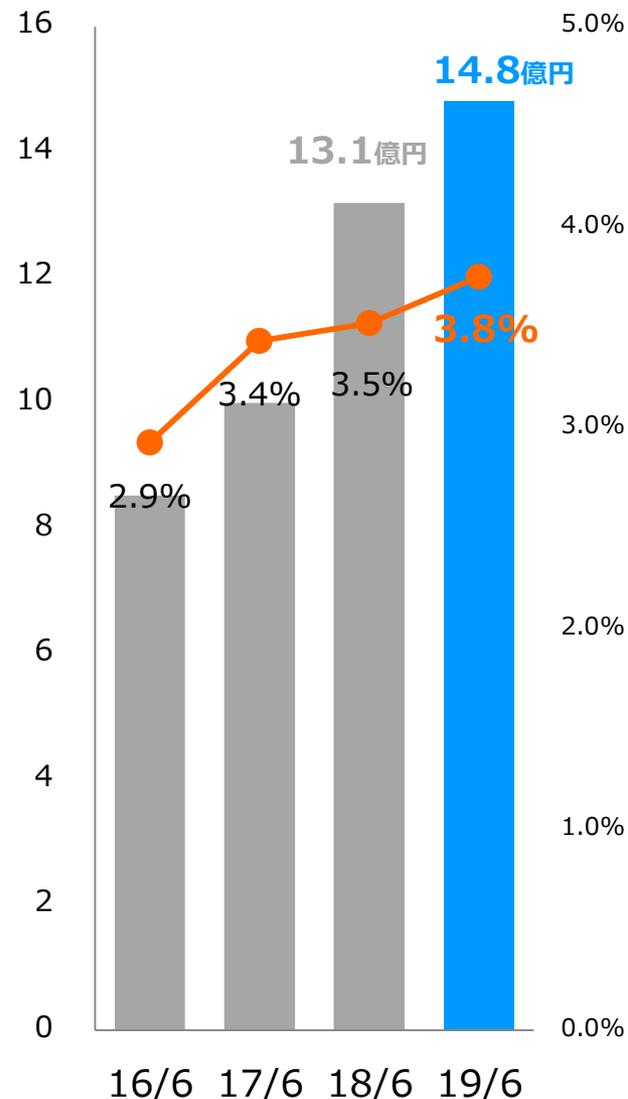
## 売上総利益・率

(単位：億円)

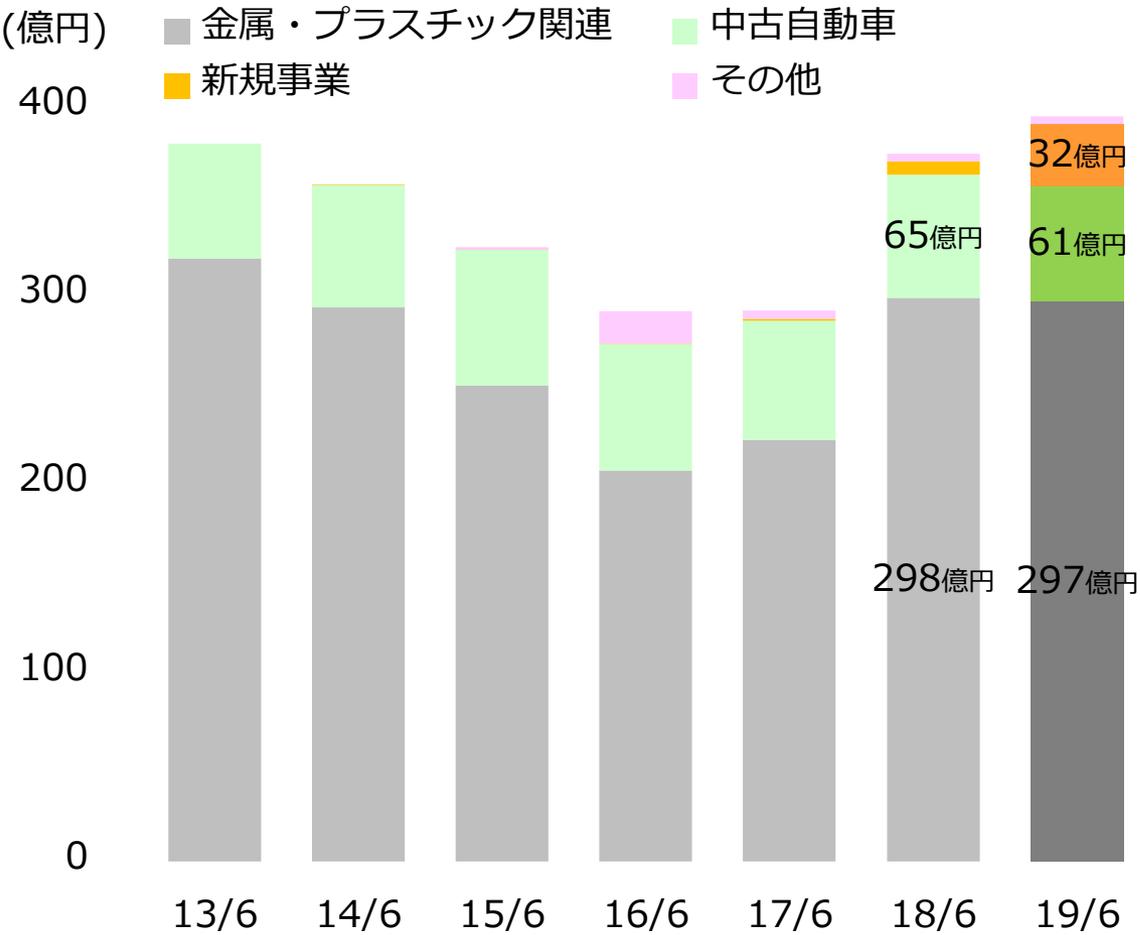


## 経常利益・率

(単位：億円)



# 品種別売上高



新規事業 売上

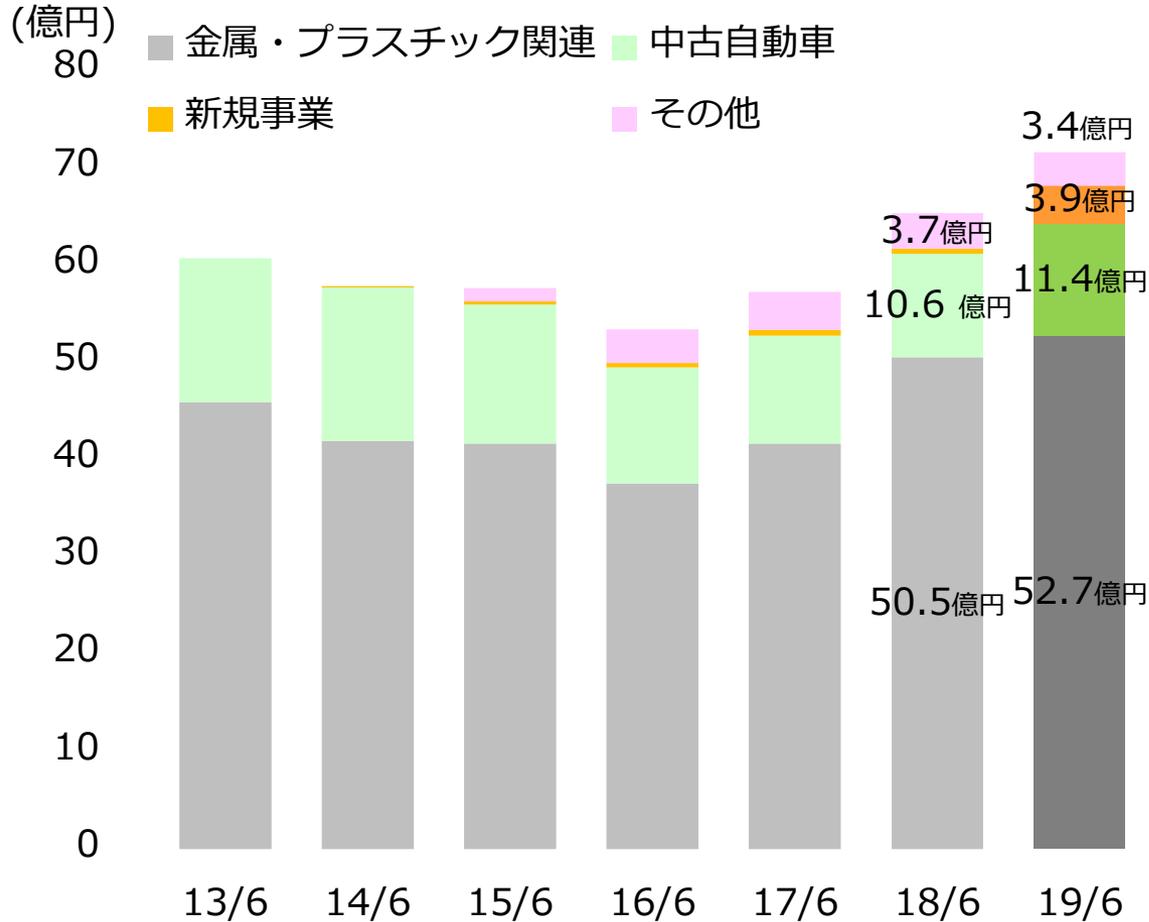
2018年6月期 **7**億円

⇒2019年6月期 **32**億円

(単位：億円)

品種別合計	380	358	325	291	292	375	395
相殺	▲1	▲1	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0
連結	379	357	325	291	291	374	394

# 品種別売上総利益



新規事業 売上総利益

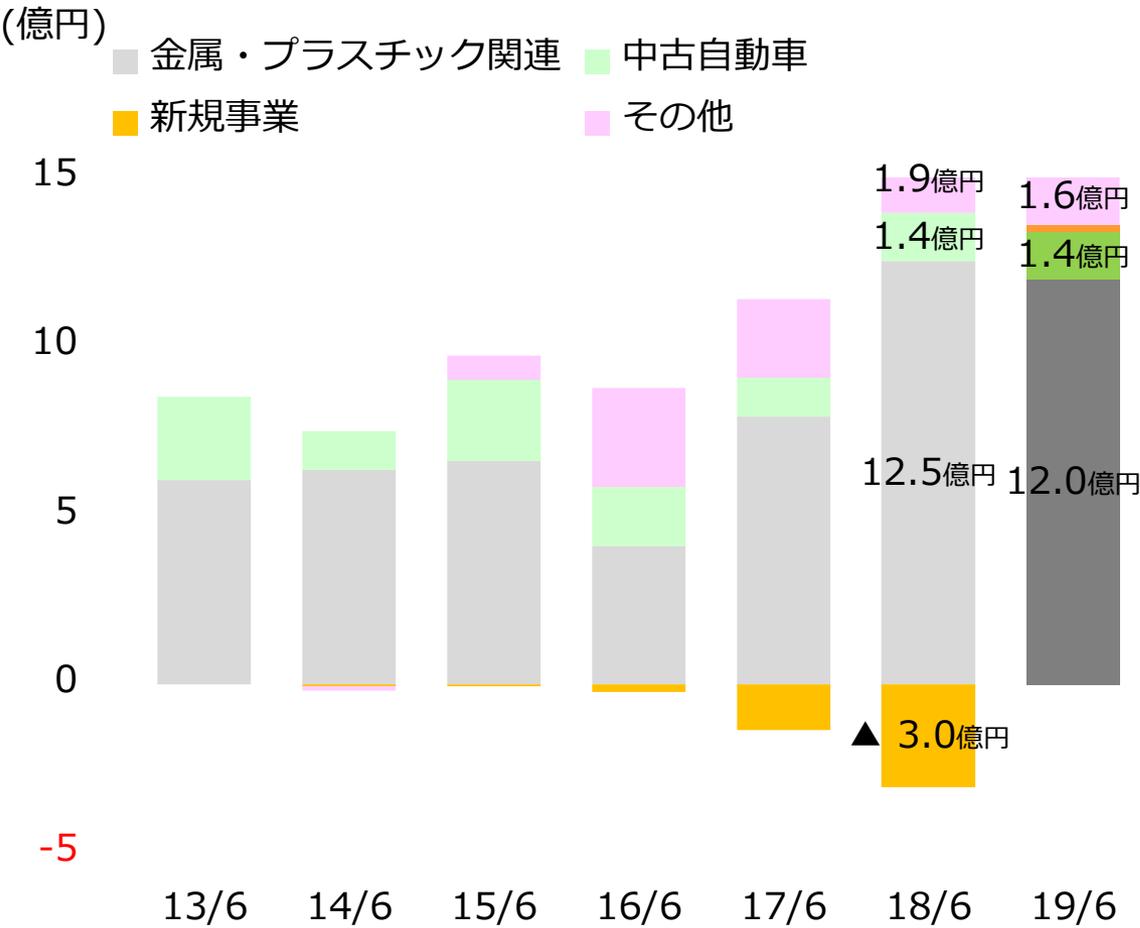
2018年6月期 **0.5**億円

⇒2019年6月期 **3.9**億円

(単位：億円)

品種別合計	60.7	57.8	57.6	53.3	57.2	65.3	71.6
相殺	▲0.0	0.1	0.2	▲0.0	▲0.2	0.0	▲0.3
連結	60.6	57.9	57.8	53.3	57.0	65.4	71.2

# 品種別経常利益



新規事業 経常利益

2018年6月期 ▲ 3.0億円

⇒2019年6月期 0.2億円

新規事業はトータルで黒字化

(単位：億円)

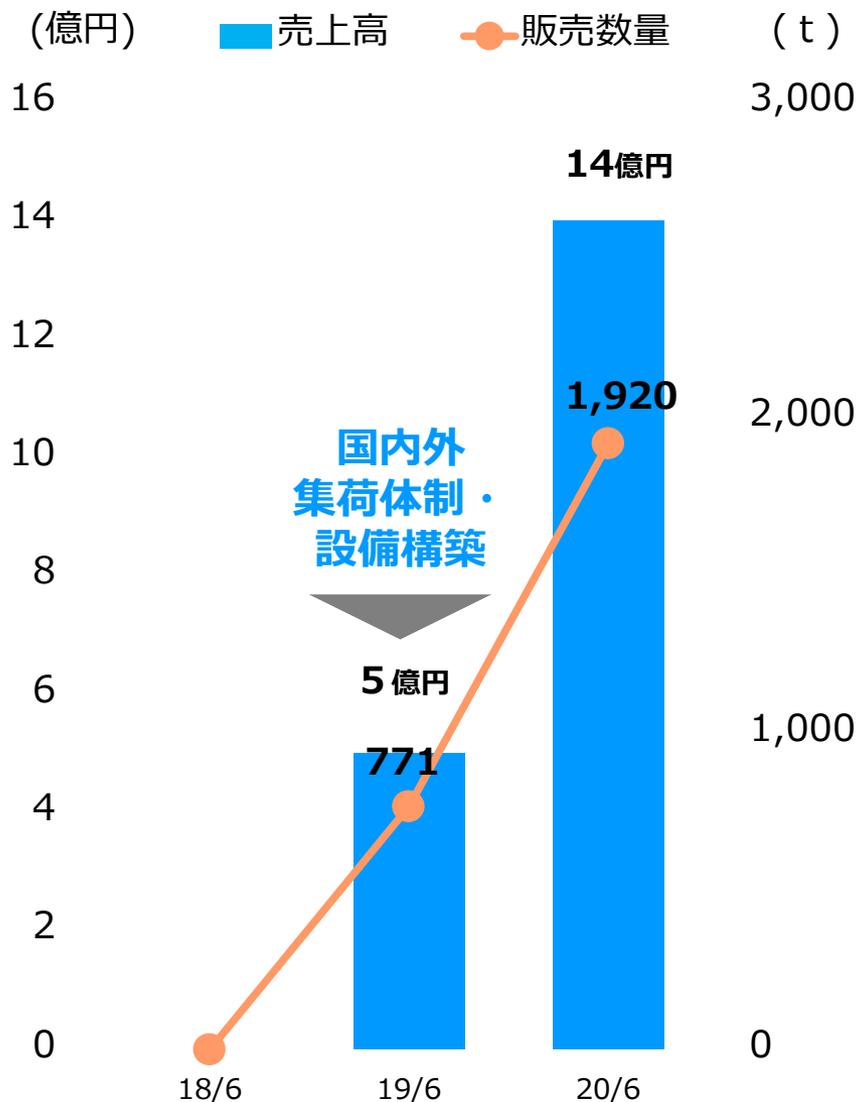
品種別合計	8.5	7.3	9.7	8.5	10.0	12.8	15.2
相殺	0.4	▲0.0	0.3	▲0.0	▲0.0	0.3	▲0.4
連結	8.9	7.2	10.0	8.5	10.0	13.1	14.8

# 今期のトピックス

- ① リチウムイオン2次電池リサイクル事業の立上げ
- ② 金銀滓回収量の拡大
- ③ 中国の雑品、プラスチック輸入禁止への対応
- ④ 国際流通事業強化と海外での事業拡大
- ⑤ カーボンマネジメント・コンサルティングの強化  
及びソリューション提案

# ① リチウムイオン2次電池リサイクル事業の立ち上げ

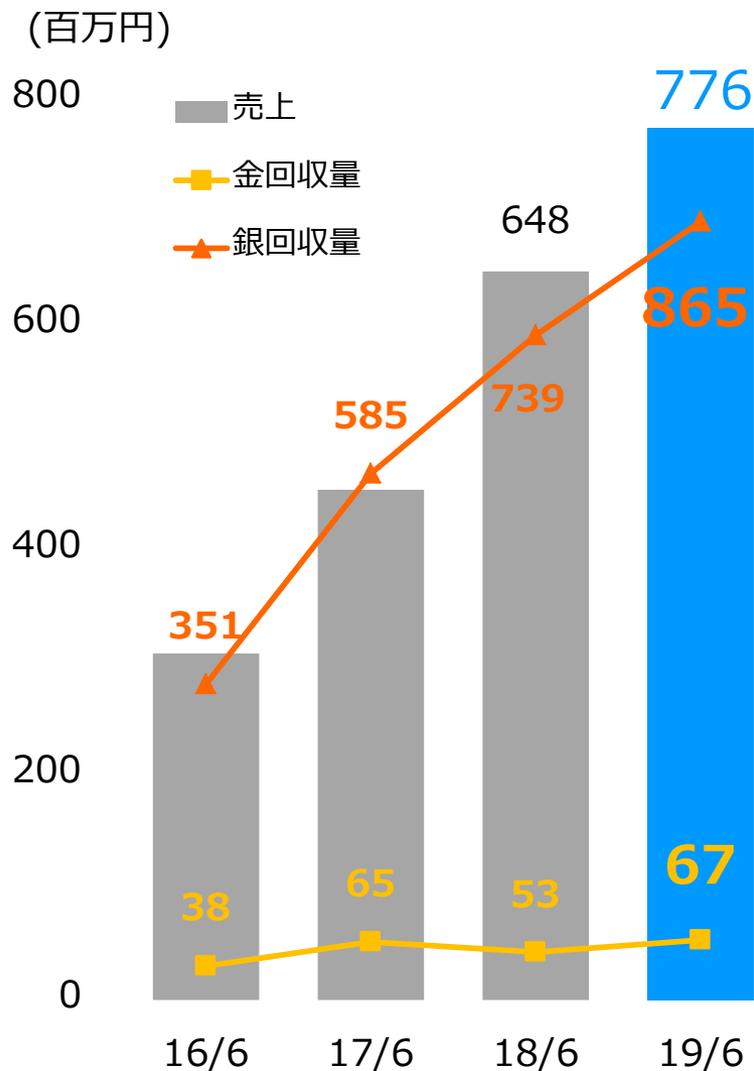
目標販売量・売上高



レアメタル（ニッケル・コバルト等）のリサイクル分野にグループの経営資源を集中的に投入して本格的に参入する

会社名	株式会社VOLTA (VOLTAGE+AUTOMOTIVE)
本社	富士宮市山宮3507番地の19
設立	2018年1月
出資金	4億円 (資本金2億円 資本準備金2億円)
対象材料	使用済みリチウムイオン2次電池、 リチウムイオン2次電池生産工程屑等

## ②金銀滓回収事業の拡大



プレシャスメタル（金、銀、プラチナ、パラジウム）のリサイクルを事業の柱の1つにしていく

- 落じん灰回収自治体数の増加  
⇒現在2自治体と契約  
今期は10自治体との契約を目標
- 太平洋セメント(於大船渡工場)との実証事業(今期)と事業化の模索
- ヨーロッパ等からの金銀滓輸入増加
- 台湾、韓国の最終処分場での金銀滓回収提案

0  
200  
400  
600  
800  
1000

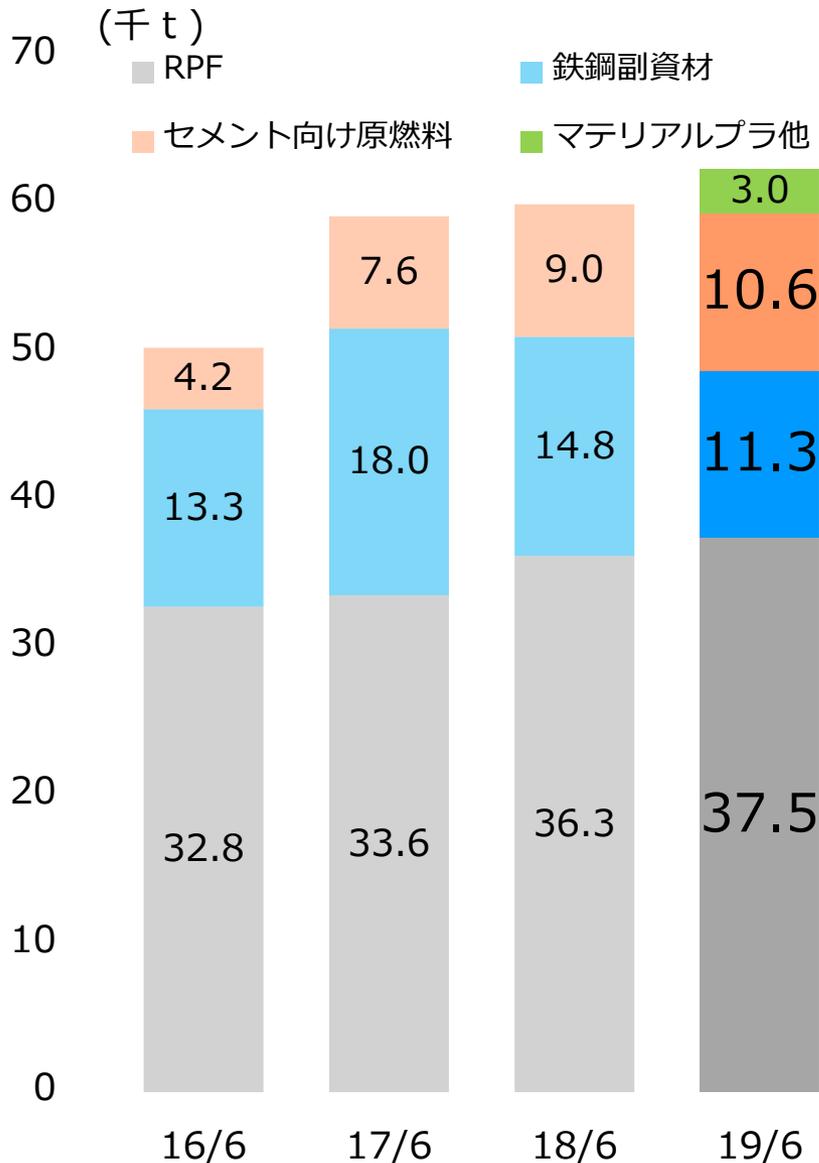


ミックスメタル  
(金銀滓含有)



太平洋セメントとの  
実証事業プラント

# ③中国の雑品、プラスチック輸入禁止への対応



## ①雑品への対応

生産能力 5 倍の高度選別ラインの設置  
(2018年10月稼働開始予定)



## ②プラスチックへの対応

- RPF生産量の増加
- セメント向け原燃料の増加
- 新たな鉄鋼副資材の開発 (サーモリアクター)
- マテリアルリサイクルの仕組みづくり
- アンモニア原料の開発

## ④ 国際流通事業強化と海外での事業拡大

### ➤ ベトナムの製鉄所との安定供給仕組みづくり

⇒既存製鉄所1社に加え、新たに2社とのスキーム作りを計画  
ベトナムへの販売量 2018年6月期 7万 t ⇒2019年6月期 20万 t

### ➤ バイオマス燃料集荷基地拡大

PKS用 今期中1か所増加（マレーシアクワンタンに続き2拠点目）

⇒インドネシア ペカンバル（2018年11月稼働予定）

ベトナムでの木質ペレット製造の合併会社設立準備

PKS・木質ペレット取扱数量

2018年6月期 4.6万 t ⇒2019年6月期 10万 t

### ➤ 金属スクラップの3国間貿易

2018年6月期実績 13,600 t ⇒2019年6月期目標 30,000 t

### ➤ 輸入及び輸出の新商材開発（使用済みリチウムイオン電池等）

R2認証 2019年6月取得予定

### ➤ (株)アビツ（持分法適用会社）によるタイでのNEDOプロジェクト立ち上げ

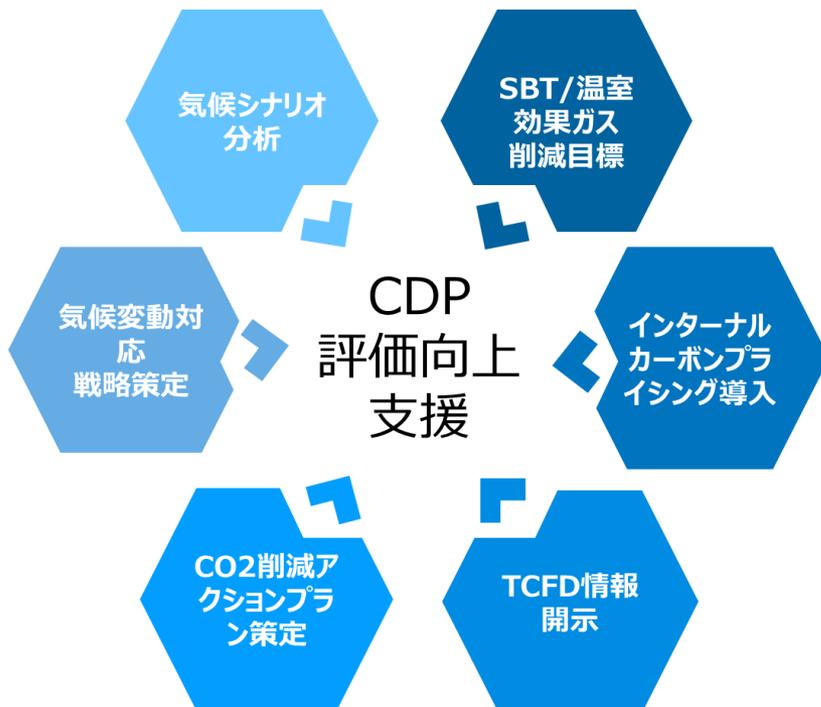
タイ国内のWEEEリサイクル促進が目的。3年の実証事業を経て  
タイ国内の大手リサイクル会社と合併会社設立を計画

# ⑤カーボンマネジメントコンサルティングの強化 及びソリューション提案



CDPとは・・・  
 気候変動対応等に関する最も著名な企業評価制度  
 世界の企業6,000社が評価対象  
 企業価値を図る重要な指標（投資家が活用）

- ・大手企業からのCDP評価向上支援のコンサルティング依頼を多数受注  
 ⇒よりよいスコアを出すためのコンサルティングを実施

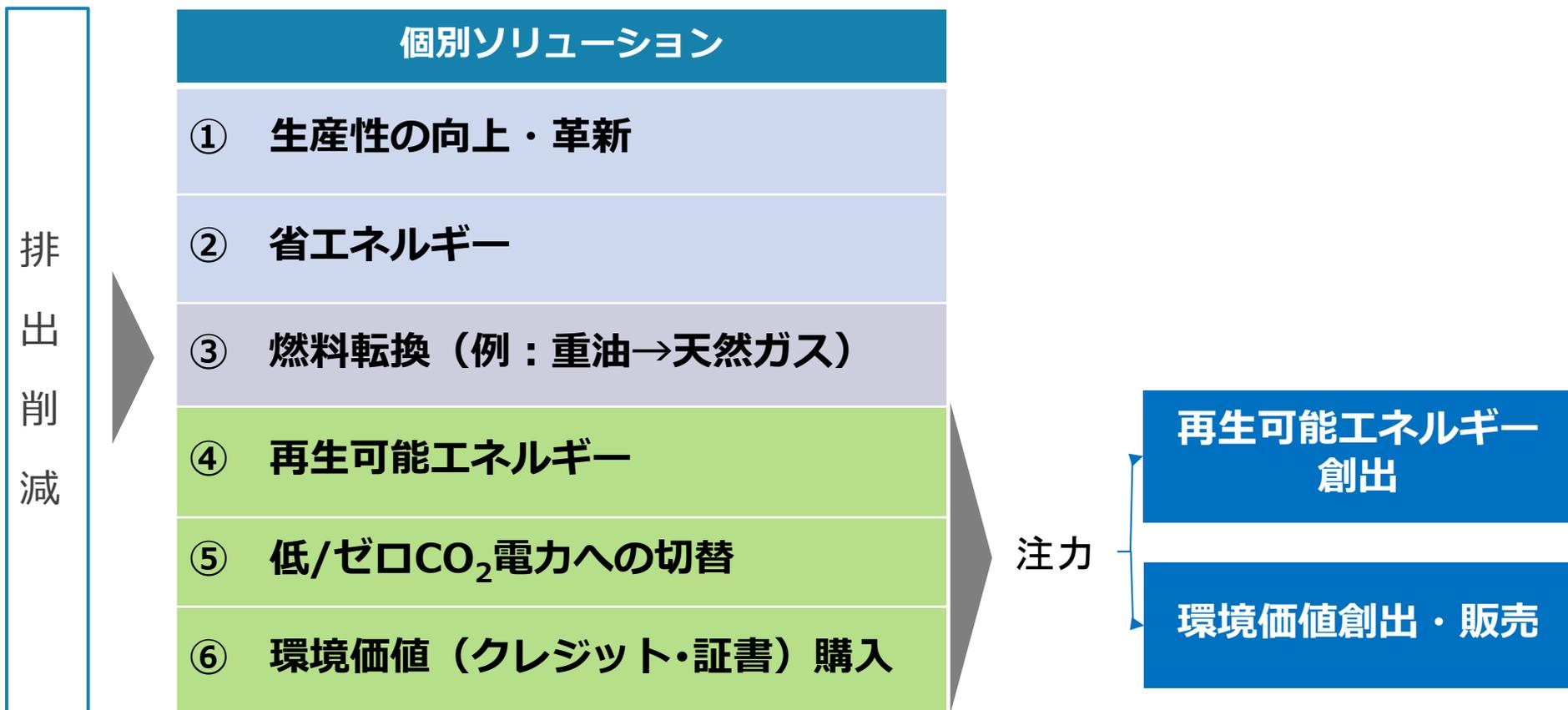


自動車会社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営支援</li> <li>・環境経営顧問</li> <li>・KPI、目標、アクションプラン案作成支援</li> <li>・環境報告書作成支援</li> <li>・CDP評価向上支援</li> <li>・カーボン戦略策定のための調査</li> <li>・気候変動ビジネスへの影響と対応方法に係るセミナー実施</li> </ul>
製薬会社	
製鉄会社	
セメント会社	
電気電子会社	
IT会社	
ハウスメーカー	

# ⑤カーボンマネジメントコンサルティングの強化 及びソリューション提案



## CO<sub>2</sub>削減をキーとしたソリューションサービス開発



コンサルティングからソリューションまで一貫したサービスでクライアントニーズへの対応力と競争優位性を高める

# 「RE100」宣言

2018年7月

## リサイクル業界で世界初のとなるRE100を宣言



### RE100とは

- ◆事業に必要な電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業によるグローバルイニシアチブ
- ◆運営はクライメイト・グループが担い、パートナーとしてCDPが協力

GOAL  
2050年100%

2020年  
30%



2050年までに事業に必要な電力を100%再生可能エネルギーで調達することを目指す。

技術力のある  
環境サービスプロバイダー  
を目指して

---

## 3. 会社概要

# グループ概要



本	社	静岡県富士宮市山宮3507番地の19
代	表	代表取締役社長 佐野富和
設	立	2010年5月
グ	ル	グループ会社
ー	プ	
会	社	連結子会社13社(孫会社含む)、持分法適用関連会社2社
従	業	従業員数
員	数	
		単体26名（連結389名） ※2018年6月末現在

子 会 社 ・ 関 連 会 社	金属・プラスチック等リサイクル	(株)エコネコル、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、 (株)プラ2プラ、(株)東洋ゴムチップ (株)VOLTA（リチウムイオン2次電池のリユース、リサイクル） (株)アビツ（49%(株)USSとの合併） (株)富士エコサイクル(20%(株)富士通ゼネラルとの合併)
	中古車・中古車部品等のリユース	(株)3WM（海外現地法人 UAE、チリ、ウガンダ）
	障がい福祉サービス	(株)アストコ
	再生可能エネルギー発電 開発サービス	(株)E3
	環境コンサルティング サービス	(株)ブライティノベーション

※従業員数は正社員数

# 拠点

## 【流通拠点】

- ★鉄スクラップヤード (10箇所)
- ★非鉄倉庫 (3箇所)
- ★自動車ヤード (3箇所)



## 【加工拠点】 (8箇所)

函館、松本、富士宮、清水、  
浜松 (2箇所)、名古屋、群馬

## 【海外拠点】

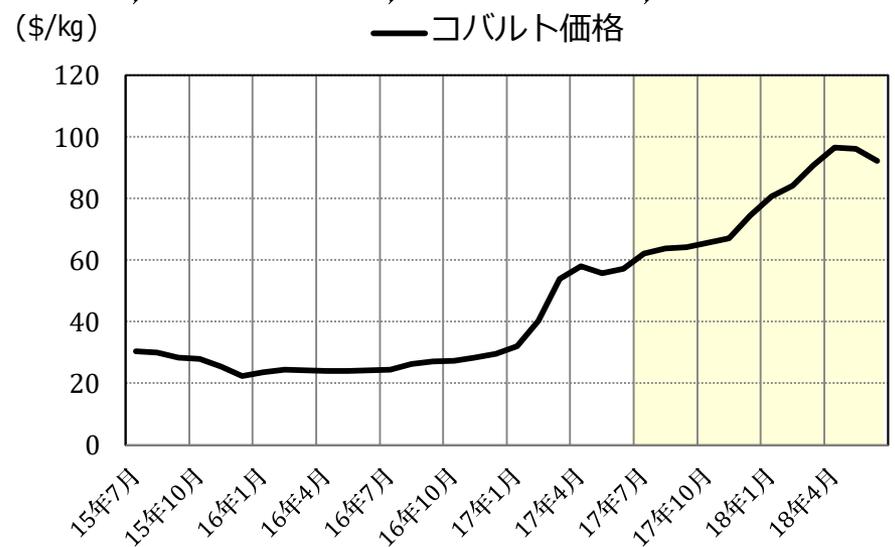
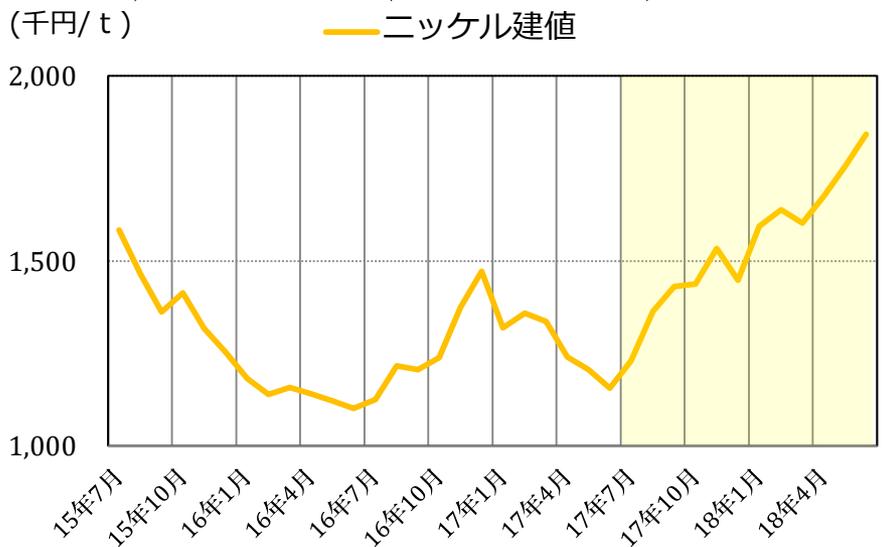
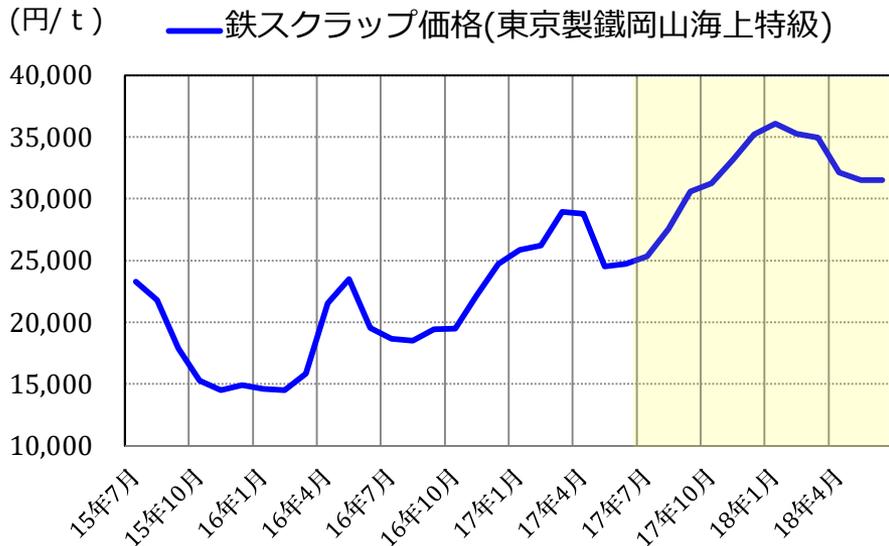
- 1 UAE現地法人 (株) 3 WM海外子会社
- 2 チリ現地法人 (株) 3 WM海外子会社
- 3 ウガンダ現地法人 (株) 3 WM海外子会社
- 4 ホーチミン駐在事務所 (株) エコネコル海外事務所
- 5 マレーシア集荷ヤード  
(合併会社 Mine Biomass Synergies)



---

## 4. 参考データ

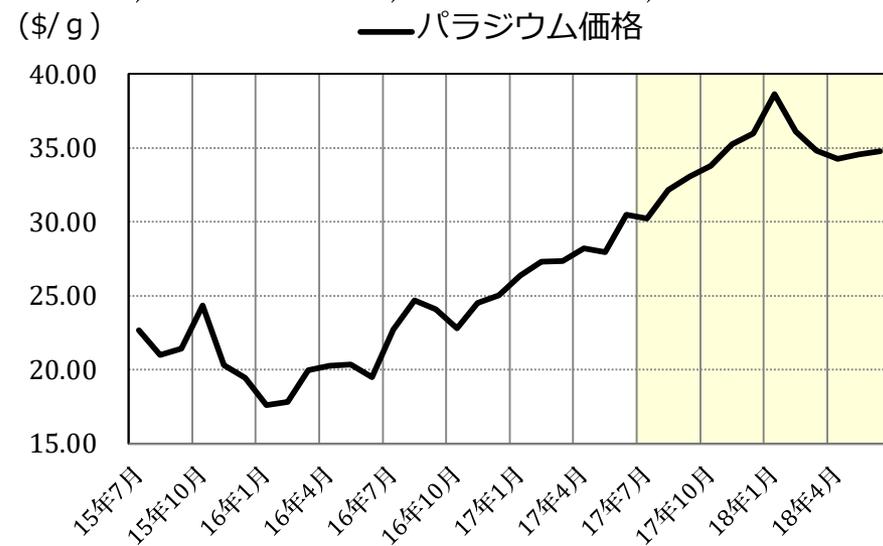
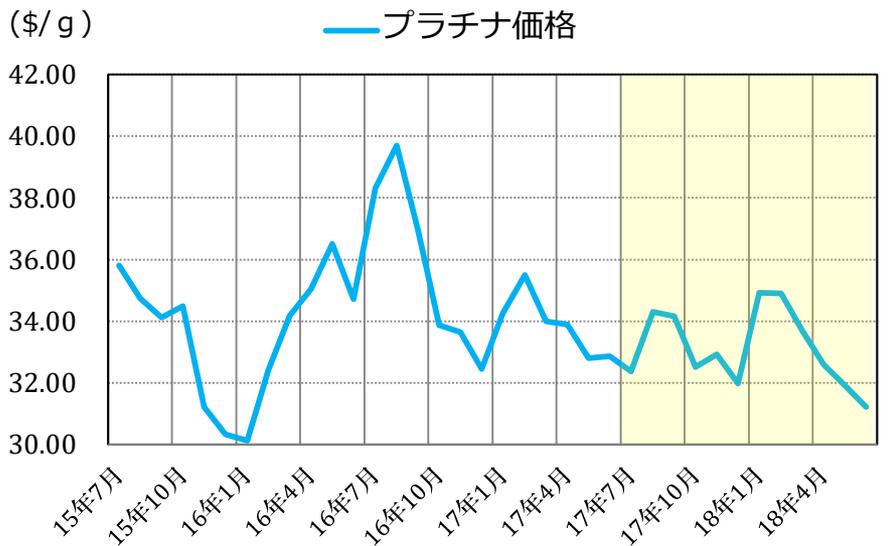
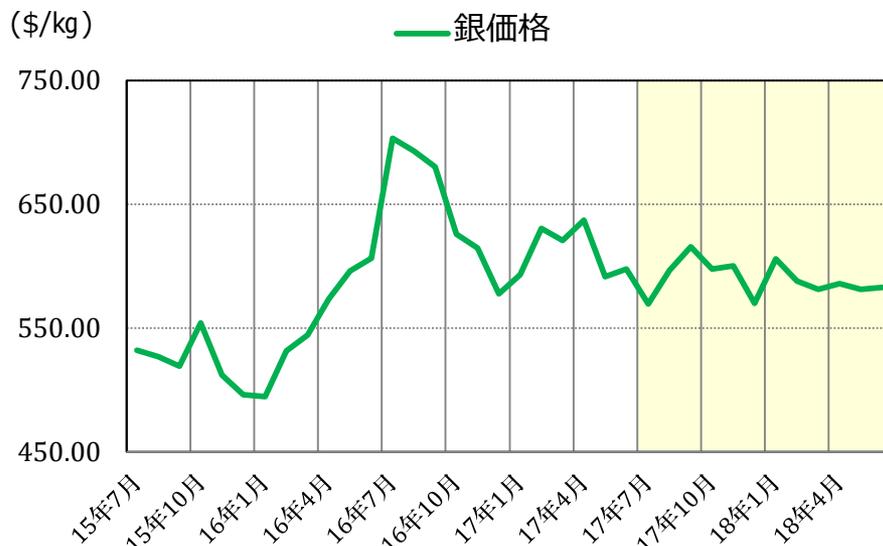
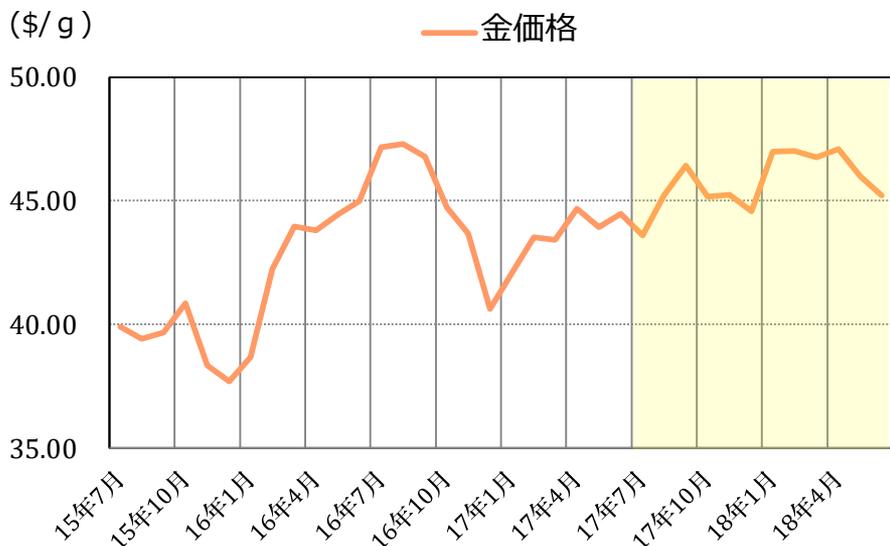
# 相場推移①



(出所) 東京製鐵(株)、(株)日本経済新聞社

(出所) 一般社団法人日本電線工業会、IRUNIVERSE(株)

# 相場推移②

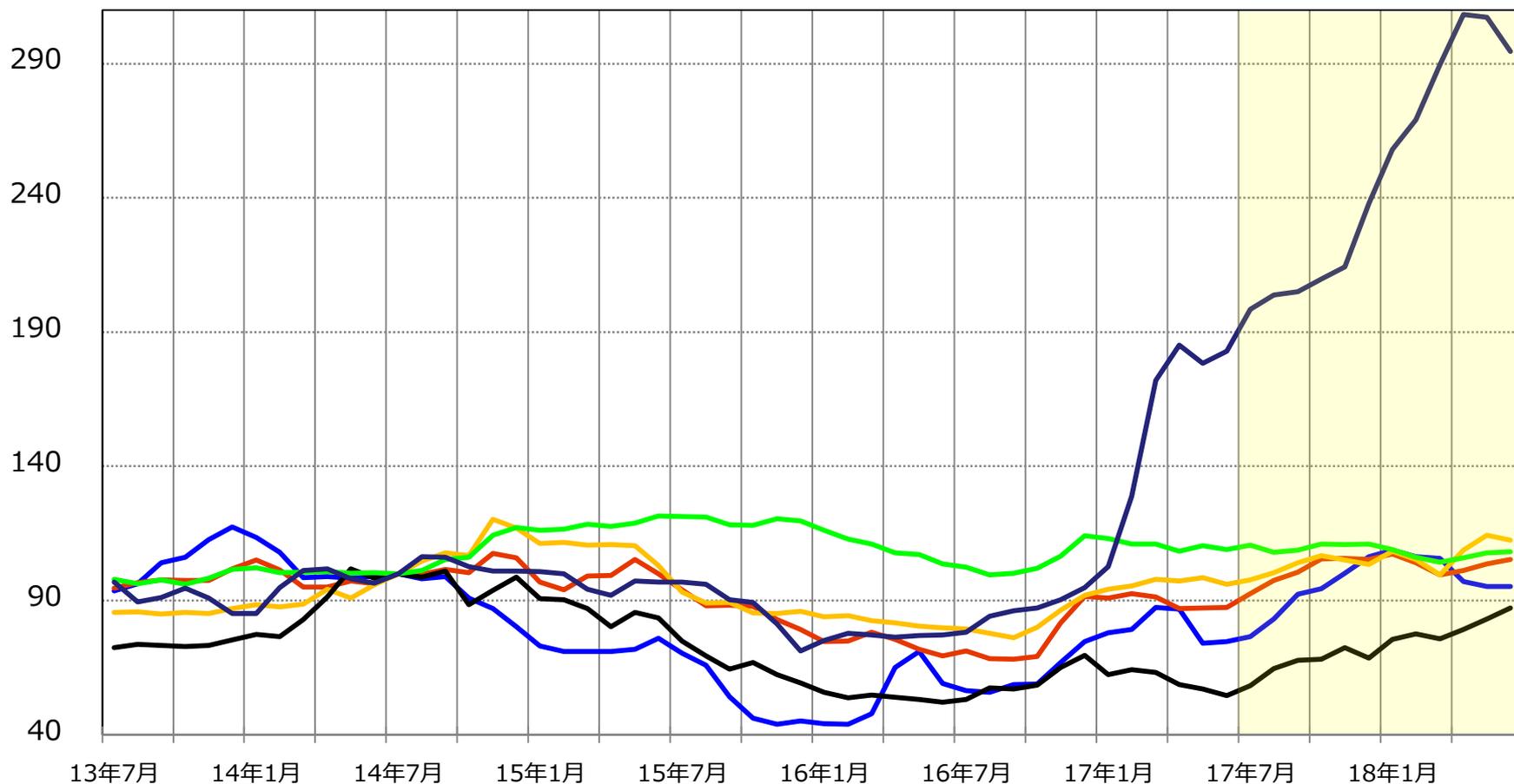


(出所) Kitco Metals Inc

# 相場推移③

## 金属相場の推移 (INDEX推移 2014年7月を100とする)

鉄スクラップ価格 電気銅建値 アルミ建値 ニッケル建値 ドル/円 為替 コバルト価格



# 日本の都市鉱山 金・銀・銅埋蔵量

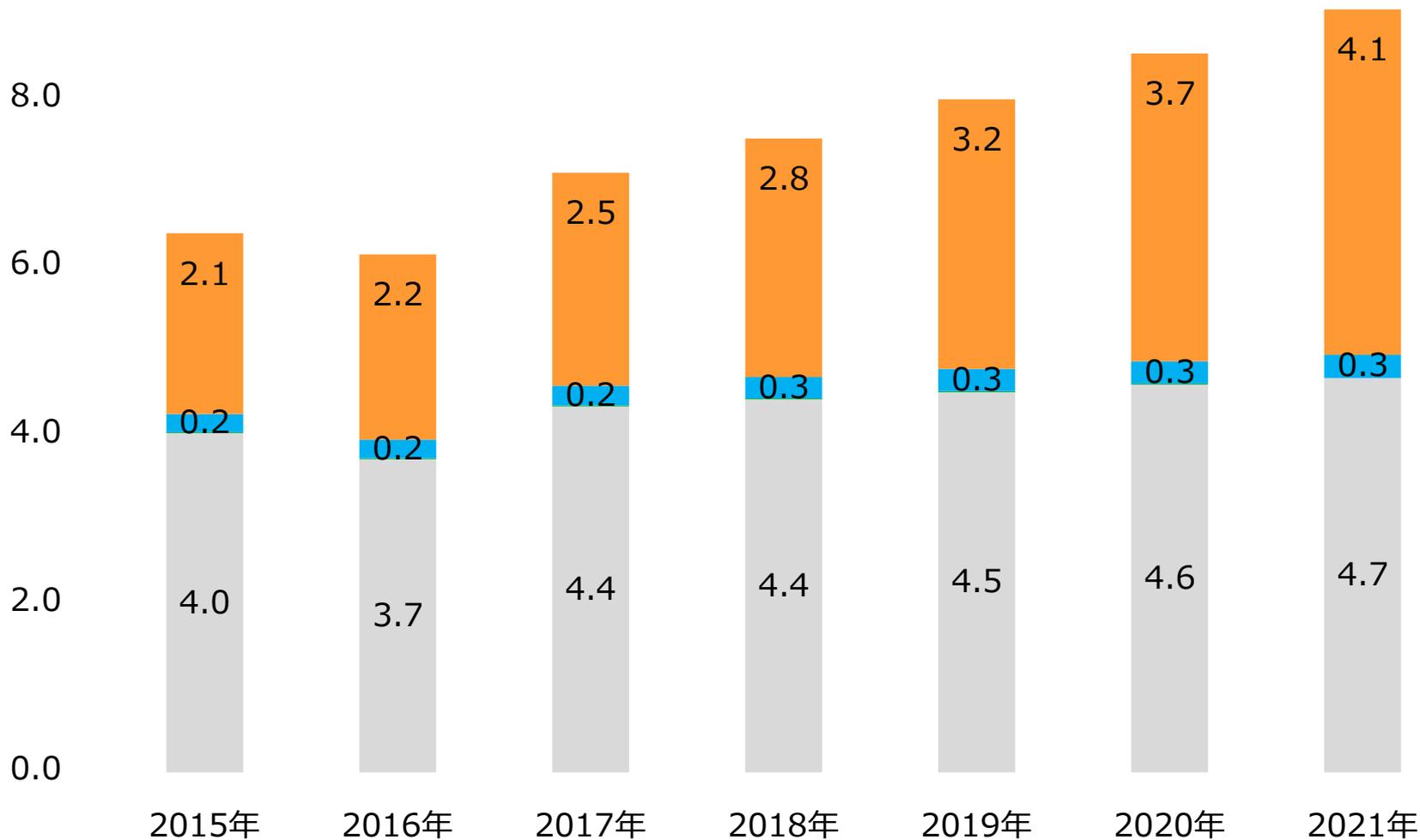
金属	世界の年間消費 (t)	世界の埋蔵量 (t)	日本の都市 鉱山蓄積 (t)	世界の埋蔵量に対する 日本の都市鉱山の比率 (%)	世界の年間 消費量との比 (倍)	埋蔵量国別順位
アルミニウム(Al)	177,000,000	25,000,000,000	60,000,000	0.24%	0.3	12
アンチモン(Sb)	11,200	1,800,000	340,000	19.13%	30.7	3
クロム(Cr)	20,000,000	810,000,000	16,000,000	2.08%	0.8	4
コバルト(Co)	57,500	7,000,000	130,000	1.876%	2.3	6
銅(Cu)	15,300,000	480,000,000	38,000,000	8.06%	2.5	2
金(Au)	2,500	42,000	6,800	16.36%	2.7	1
インジウム(In)	450	11,000	1,700	15.50%	3.8	2
鉄(Fe)	858,000,000	79,000,000,000	1,200,000,000	1.62%	1.5	11
鉛(Pb)	3,300,000	57,000,000	5,600,000	9.85%	1.7	4
リチウム(Li)	21,100	4,100,000	150,000	3.83%	7.4	6
モリブデン(Mo)	179,000	8,600,000	230,000	2.69%	1.3	6
ニッケル(Ni)	1,550,000	64,000,000	1,700,000	2.70%	1.1	9
白金族元素(PGM)	445	71,000	2,500	3.59%	5.7	3
レニウム(RE)	123,000	88,000,000	300,000	0.35%	2.5	6
銀(Ag)	19,500	270,000	60,000	22.42%	3.1	1
タンタル(Ta)	1,290	43,000	4,400	10.41%	3.5	3
スズ(Sn)	273,000	6,100,000	660,000	10.85%	2.4	5
タングステン(W)	73,300	2,900,000	57,000	1.97%	0.8	5
バナジウム(V)	62,400	13,000,000	140,000	1.08%	2.2	4
亜鉛(Zn)	10,000,000	220,000,000	13,000,000	6.36%	1.4	6

# リチウムイオン電池市場規模

(兆円)

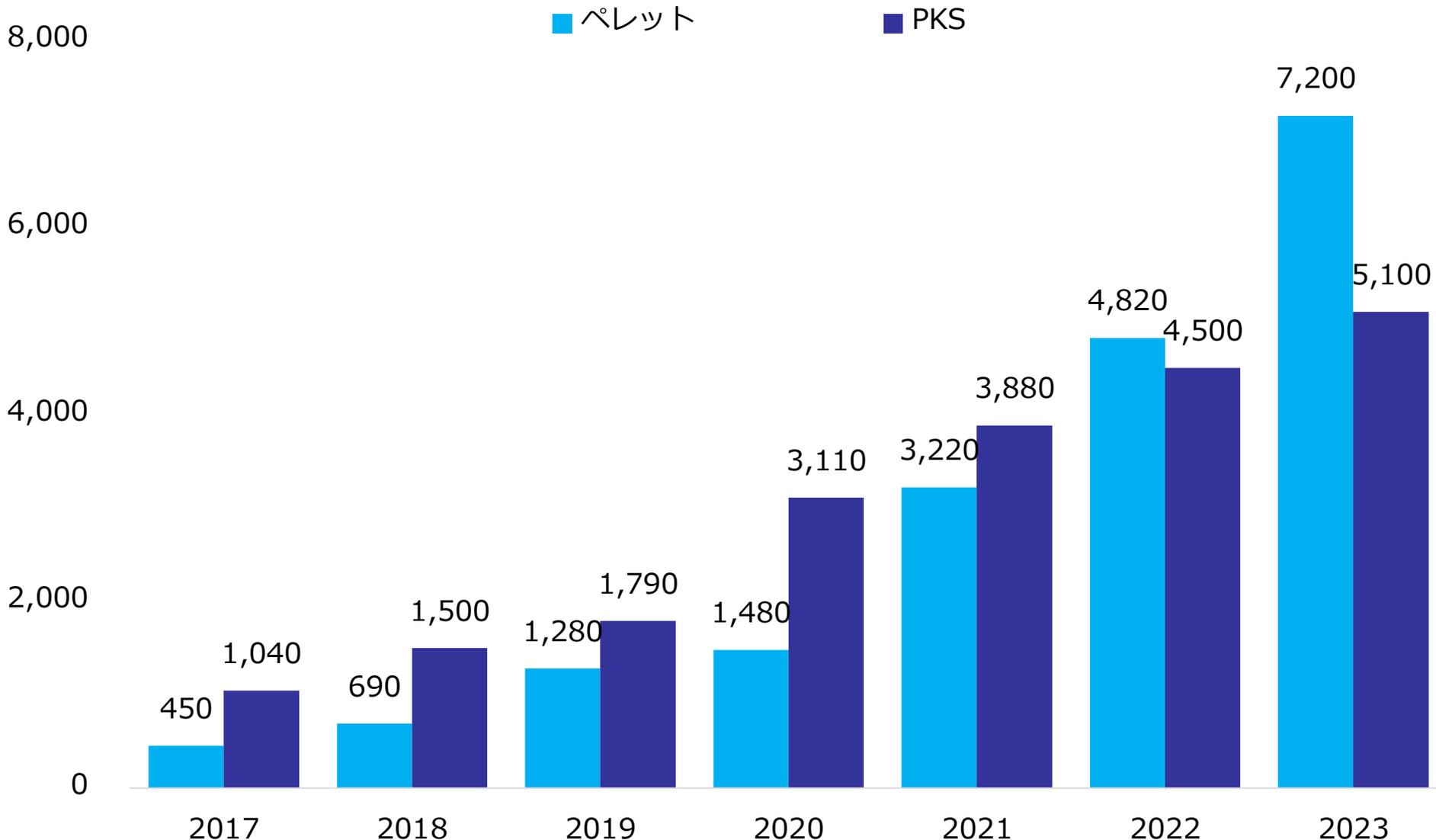
10.0

LIB系合計    ニッケル水素合計    ニカド電池    鉛蓄電池



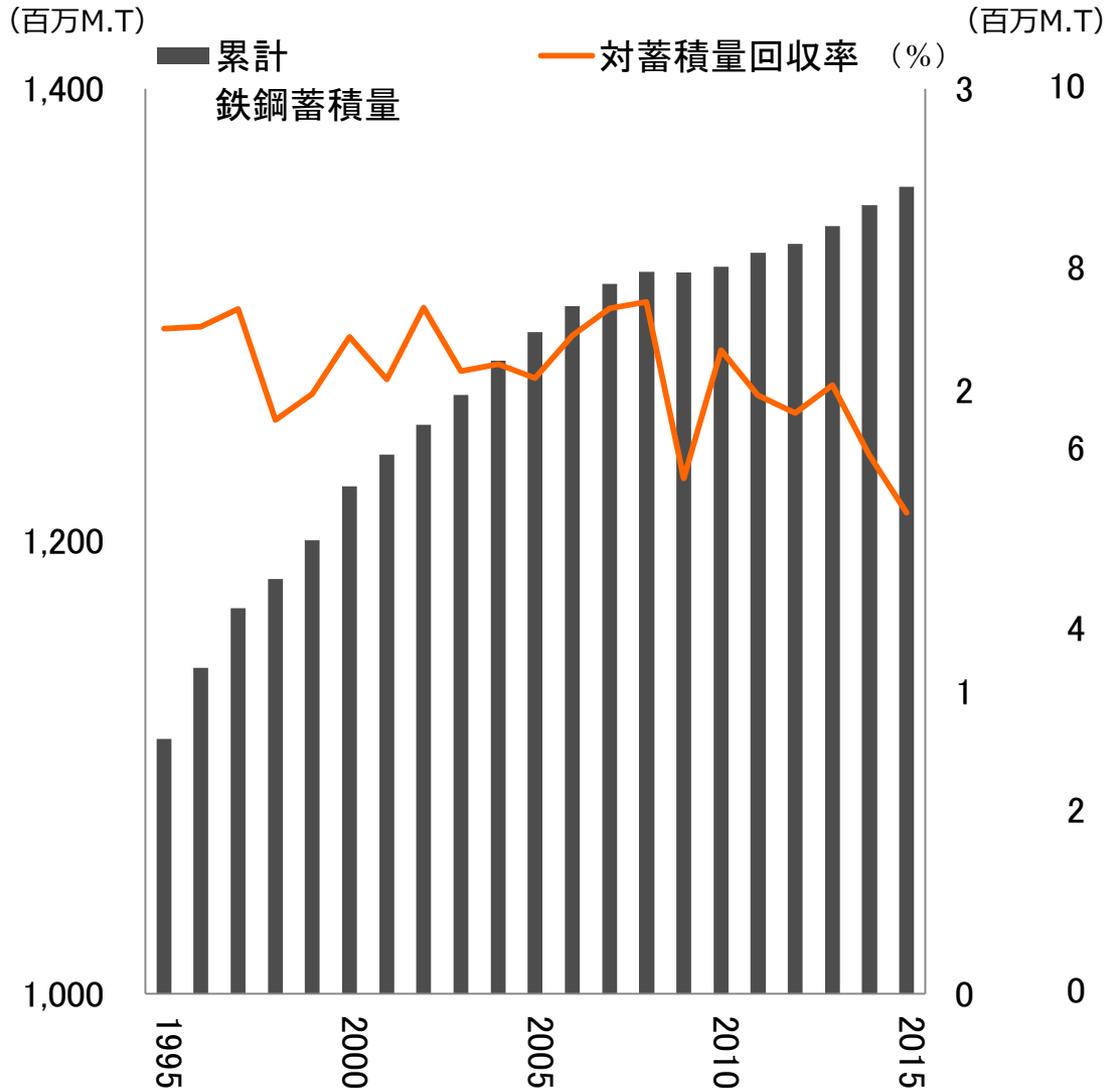
# 日本へのPKS・木質ペレットの輸入量予測

(千t)

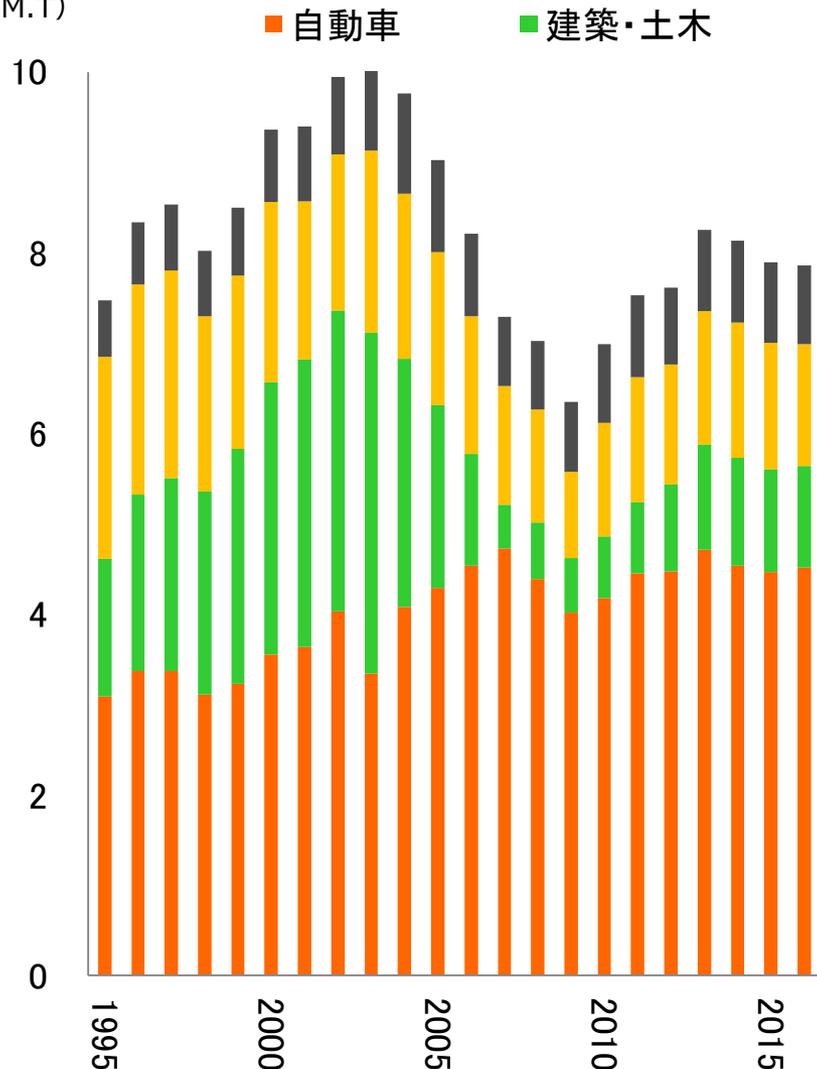


# 国内鉄スクラップのマーケット

## 鉄鋼備蓄量と回収率推移



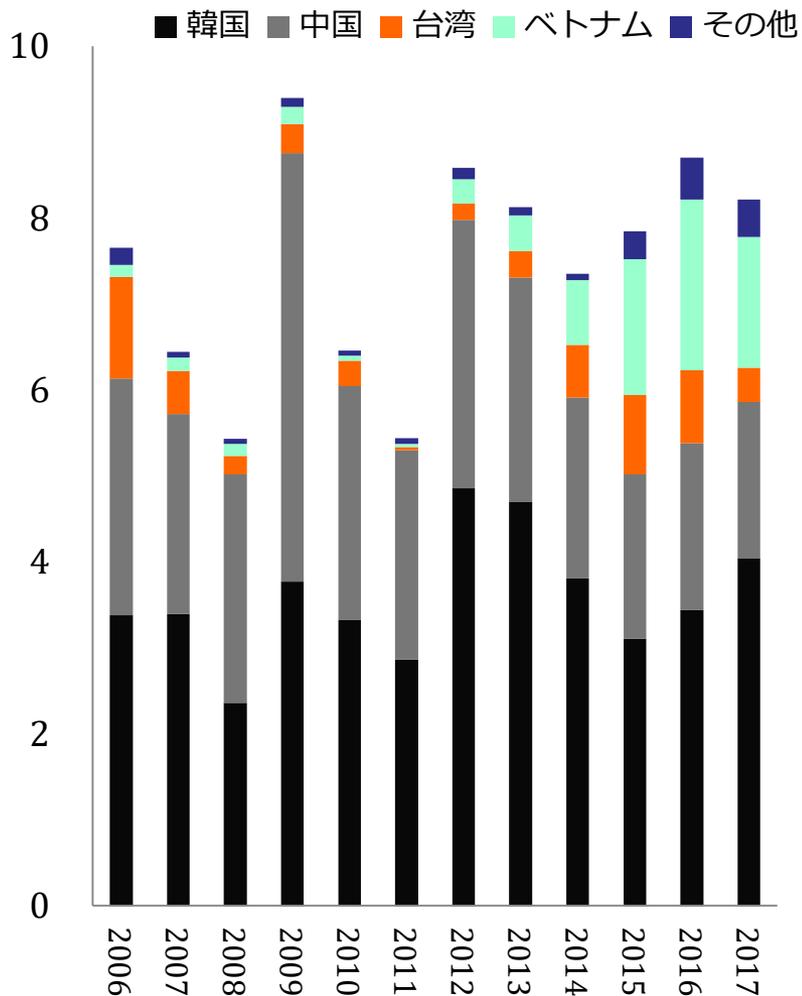
## 加工スクラップ発生量推移



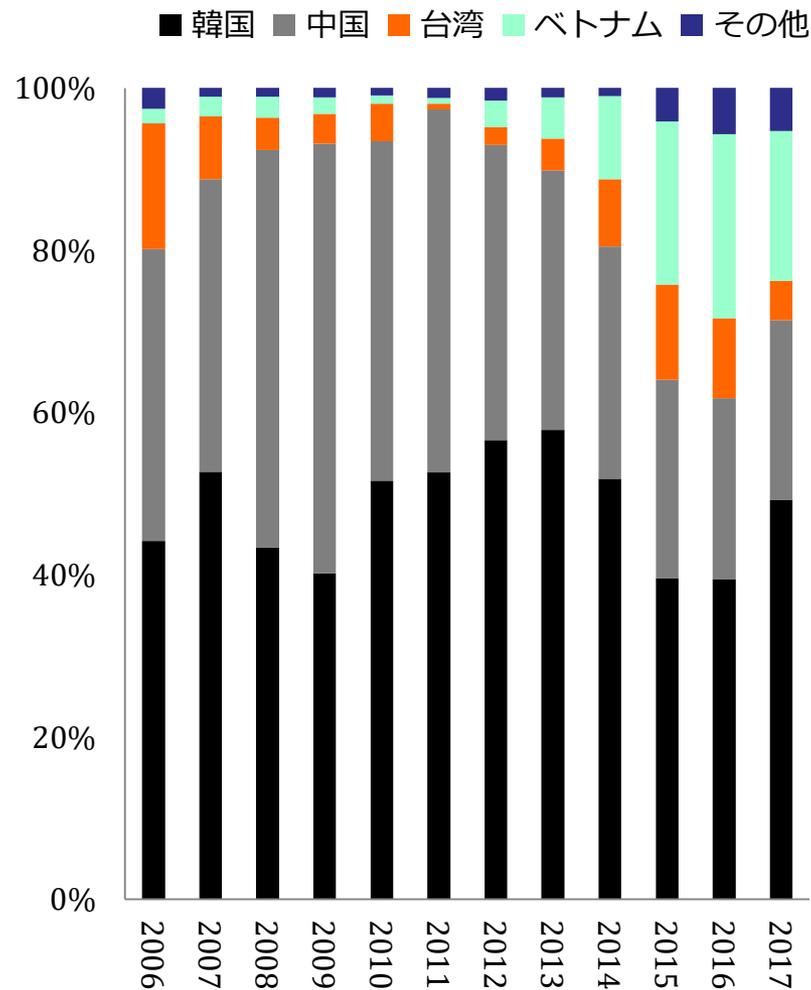
# 輸出鉄スクラップのマーケット

## 鉄スクラップ輸出量推移

(百万M.T)



## 鉄スクラップ輸出シェア推移



- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

## 【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 58-0521

URL <https://www.envipro.jp/>